

# HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 9.30

---

## インストールとアップグレード

ドキュメントリリース日 : 2011年 3月 31日  
ソフトウェアリリース日 : 2011年 3月



# ご注意

## 著作権について

(c) Copyright 1994-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## 権利の権限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。

これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。

商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

## 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。

ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

サードパーティまたはオープンソースのライセンス契約の詳細を確認する場合、またはオープンソースコードを表示する場合は、次のいずれかのパスを使用してください。

- ソフトウェアのインストールCD-ROMの「ThirdParty」ディレクトリ
- ソフトウェアのインストール後にサードパーティまたはオープンソースツールのバイナリファイルが格納されるディレクトリ
- 『Open Source and Third-Party Software License Agreements』ガイドに記載されているコンポーネントのURL

## 商標について

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat®およびAcrobat Logo®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- Corel®およびCorel logo®は、Corel Corporation or Corel Corporation Limitedの商標または登録商標です。
- Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile®およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
- Oracle®はOracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

## 謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/> [<http://www.apache.org/>]) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The Apache Software Foundation.All rights reserved.

本製品には、OpenLDAP Foundationにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright ©, The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.All Rights Reserved.OpenLDAP®は、OpenLDAP Foundationの登録商標です。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) での使用を目的にOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSSL Project.All rights reserved.

本製品には、OpenSymphony Group (<http://www.opensymphony.com/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSymphony Group.All rights reserved.

本製品には、RSA Data Securityからライセンス供与されたコードが含まれています。

本製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © Jason Hunter & Brett McLaughlin.All rights reserved.

# 目次

はじめに	9
このガイドの対象ユーザ	9
このガイドの使用目的	9
Asset Managerデータの保全性に関する注意	10
<b>1. Asset Managerのコンポーネント</b>	<b>11</b>
Asset Managerのパッケージ	11
Asset Managerモジュール	12
周辺プログラム	13
<b>2. サポートされる環境</b>	<b>15</b>
サポートされるオペレーティングシステム	15
サポートされるDBMS	17
<b>3. 旧バージョンからアップグレードする</b>	<b>19</b>
Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、5.0x、または5.1xのアップグレード - 概要	20
アップグレード操作の詳細例	22
<b>4. Windowsでのインストールとアンインストール (Asset Manager Webを除く)</b>	<b>37</b>

Asset Managerインストール前の注意事項	37
手動インストール (GUI)	40
手動アンインストール (GUI)	42
自動インストールとアンインストール (コマンドライン)	43

## 5. Windowsでの設定 (Asset Manager Webを除く) . . . . . 51

Oracle DLL	51
メッセージシステム	52
Asset Manager Automated Process Manager	53
SAP Crystal Reports	55
HP Connect-Itとの統合	55
デモ用データベース	56

## 6. Asset Manager Webのインストール、設定、削除、および更新 . . . . . 59

Asset Manager Webアーキテクチャ	59
Asset Manager Webのインストール	60
Asset Manager Webの設定	97
Internet Explorerを使ったAsset Managerへのアクセス	97
Asset Manager Webの最適化	97
Asset Manager Webのアンインストール	99
問題	101
Asset Manager Webの更新	102

## 7. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル . . . . . 103

使用可能な「.ini」 および 「.cfg」 ファイル	103
「.ini」 ファイルを変更する	106

## 8. パフォーマンスの考慮事項 . . . . . 111

## 索引 . . . . . 113

---

# 図の一覧表

3.1. 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースのアップグレード - 概要 .....	22
6.1. Asset Manager Webアーキテクチャ .....	59



# 表の一覧表

3.1. Asset Managerバージョン番号別のアップグレードタイプ . . . . .	19
6.1. 編集する「package.properties」ファイルの選択 . . . . .	72
7.1. 「.ini」および「.cfg」ファイル - 主なファイルの一覧 . . . . .	103
7.2. 「.ini」および「.cfg」ファイル - 主なファイルの場所 . . . . .	104
7.3. [OPTION] セクション . . . . .	106
7.4. [SQL] セクション . . . . .	108
7.5. [OPTION] セクション . . . . .	108
7.6. [OPTION] セクション . . . . .	109
7.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ . . . . .	110





# はじめに

---

## このガイドの対象ユーザ

このガイドはAsset Manager 9.30を使用するすべての企業を対象としています。  
このガイドは、特に以下のことを実行するエンジニアを対象としています。

- Asset ManagerとAsset Manager Webをはじめてインストールする
- 旧バージョンのAsset Managerをアップグレードする

---

## このガイドの使用目的

このガイドでは、以下を説明しています。

- Asset Managerを構成するプログラム
- Asset Managerの動作環境
- 旧バージョンのAsset Managerのアップグレード方法
- Asset ManagerとAsset Manager Webをはじめてインストールする方法
- Asset Managerの設定方法
- Asset Managerの性能の最適化

---

### 重要項目:

このガイドで説明されている手順には忠実に従ってください。

---

---

## Asset Managerデータの保全性に関する注意

Asset Managerは多彩な機能を搭載しています。この多機能は、複雑な構造のデータベースを使用することにより実現されています。

- データベースは大量のテーブル、フィールド、リンク、およびインデックスで構成されます。
- 一部の中間テーブルは、グラフィカルインタフェースには表示されません。
- 一部のリンク、フィールドとインデックスは、ソフトウェアにより自動的に作成、削除または変更されます。
- ユーザはテーブル、フィールド、リンクやインデックスを追加作成することができます。

データベースの保全性を保護しつつその内容を変更する場合、以下のアプリケーションの内の1つを使用する必要があります。

- Windowsクライアント
- Asset Manager API
- Asset Manager Import Tool
- Webクライアント
- HP Softwareゲートウェイ
- HP Connect-It
- Asset Manager Automated Process Manager
- Asset Manager Web Service

データベースの保全性を保護しつつその構造を変更する場合、Asset Manager Application Designerを使用する必要があります。

---

### 警告:

データベースの内容や構造を、ソフトウェア用にあらかじめ用意された方法以外の手段で変更しないでください。不適切な方法で変更すると、データベースが破損し、以下の問題が発生する可能性があります。

- データやリンクが勝手に削除または変更される
  - 架空のリンクやレコードが作成される
  - 重大なエラーメッセージが発生する
-

# 1 Asset Managerのコンポーネント

## Asset Managerのパッケージ

プログラム名	プログラムの インタフェース	Windowsのサポート
<b>Asset Manager</b> データベースへのアクセス用Windowsインタフェース（「注意：」を参照）	グラフィック	はい
<b>Asset Manager</b> データベースへのアクセス用Webインタフェース（「注意：」を参照）	グラフィック	はい
<b>Asset Manager Export Tool</b>	グラフィック	はい
	コマンドライン	はい
<b>Asset Manager Import Tool</b>	コマンドライン	はい
<b>Asset Manager Automated Process Manager</b>	グラフィック	はい
	コマンドライン	いいえ
<b>Asset Manager Application Designer</b>	グラフィック	はい
	コマンドライン	はい
<b>Asset Manager API</b>	非グラフィック	はい

プログラム名	プログラムの インタフェ ース	Windowsのサポート
Asset Manager Web Service	非グラフィッ ク	はい
Asset Manager Script Analyzer	グラフィック	はい
HP AutoPass License Management Tool	グラフィック	はい

## Asset Managerモジュール

WindowsおよびWebインタフェースからAsset Managerデータベースに接続すると、次のモジュールにアクセスできます。

マーケティング名	【ファイル/モジュールの管理...】メニューによって表示される名前 (Windowsクライアント)	【アクション/データベースの有効化】メニューによって表示される名前 (Asset Manager Application Designer)	HP AutoPassによって表示される名前
AM資産ポートフォリオ	管理	Admin (管理)	
AM資産ポートフォリオ	資産ポートフォリオ	ITAM (資産ポートフォリオ)	資産ポートフォリオ ServiceCatalog
AM資産ポートフォリオ	バーコード棚卸	バーコード (バーコード棚卸)	BarCode
AM資産ポートフォリオ	クライアント自動化との統合	OVCN (クライアント自動化との統合)	OVCN
AM契約管理	契約	契約 (契約)	契約
AM契約管理	契約	リース (リース管理オプション)	リース
AMソフトウェアアセット管理	ソフトウェア資産管理	SAM (ソフトウェアアセット管理オプション)	SAM
AM財務管理	ファイナンス	ファイナンス (ファイナンス)	財務
AM調達	調達	調達 (調達)	調達
AM資産ポートフォリオ	ヘルプデスク	ヘルプデスク	

モジュールへのアクセスの可否は、Asset Manager付属のHP AutoPassライセンスキーに応じて異なります。『管理』ガイドの「ライセンスキーをインストールする」の章を参照してください。

---

## 周辺プログラム

以下のソフトウェアはAsset Managerに統合可能です。

- HP Connect-It
- SAP Crystal Reports
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory
- HP Project and Portfolio Management
- HP Client Automation
- HP Universal CMDB
- HP Service Manager
- HP Data Center Infrastructure Management



## 2 サポートされる環境

---

### サポートされるオペレーティングシステム

#### **Asset Manager**クライアントプログラム

Asset Managerクライアントプログラムは次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Windows

サポートされているオペレーティングシステムのバージョンについては、サポート表 ([www.hp.com/go/hpsoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport)) を参照してください。

#### **Asset Manager**データベースサーバ

サーバは、DBMSにサポートされている全オペレーティングシステムとハードウェアプラットフォーム上で機能します。

DBMSにサポートされているオペレーティングシステムとハードウェアプラットフォームのリストは、DBMSのドキュメントを参照してください。

## Windowsでの最小システム構成と推奨システム構成

### 必要最小限の動作環境

#### **Asset Manager Automated Process Manager、Asset Manager Web、およびAsset Manager Web Service以外の全プログラム**

環境	Windows XPおよびServer 2003	Windows Vista、Windows 7、およびWindows Server 2008
CPU	Intel Xeonまたは同等	Intel Xeonまたは同等
RAM	1 GB	2 GB
ディスク容量 (*)	4 GB (全パッケージをインストール)	4 GB (全パッケージをインストール)

(\*) Asset Managerにインストールされるファイル用に約700 MBのディスク容量が必要です (本番データベースとクライアントデータベースのレイヤを除く)。

#### **Asset Manager Automated Process Manager**

環境	Windows Server 2003およびServer 2008
CPU	Intel Xeonデュアルコアまたは同等
RAM	Asset Manager Automated Process Manager用に1 GB
ディスク容量	4 GB

### 推奨される動作環境

#### **Asset Manager Automated Process Manager、Asset Manager Web、およびAsset Manager Web Service以外の全プログラム**

環境	Windows XPおよびServer 2003	Windows Vista、Windows 7、およびWindows Server 2008
CPU	Intel Xeonデュアルコアまたは同等	Intel Xeonまたは同等
RAM	2 GB	3 GB
ディスク容量 (*)	4 GB (全パッケージをインストール)	4 GB (全パッケージをインストール)

(\*) Asset Managerにインストールされるファイル用に約350 MBのディスク容量が必要です (本番データベースとクライアントデータベースのレイヤを除く)。

#### **Asset Manager Automated Process Manager**

環境	Windows Server 2003およびServer 2008
CPU	Intel Xeonクアッドコアまたは同等
RAM	Asset Manager Automated Process Manager用に2 GB



環境	Windows Server 2003およびServer 2008
ディスク容量	4 GB
ネットワーク	DBMSサーバとの高速リンク（例：Ethernet 100 Mbps、Gigabit）と最短待ち時間（<5 ms）

## Asset Manager Web

Asset Manager Webのサポートに必要な構成については、『**AM 5.20 Sizing Guide Using Oracle DB2 or MSSQL**』を参照してください。このホワイトペーパーは、『**Release Notes**』の「**Related documentation**」の章、「**Asset Manager reference documents/ White papers**」のセクションに記載された場所に配布されます。

## サポートされるDBMS

Asset Managerデータベースでは、以下のDBMSがサポートされています。

- Microsoft SQL Server
- Oracle Database Server
- IBM DB2 UDB

サポートされているDBMSのバージョン（サーバ、クライアント、ネットワークプロトコル、ドライバなど）についてはサポート表（[www.hp.com/go/hpsoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport)）を参照してください。

### 警告:

サポート表に記載されているバージョンまたはサービスパック以外（以降も含む）のDBMSでAsset Managerを使用すると、正常に機能しない場合があります。

### 警告:

それぞれのベンダがサポートしなくなったバージョンまたはサービスパックでAsset Managerを使用すると、正常に機能しない場合があります。



## 3 旧バージョンからアップグレードする

アップグレードタイプは、インストール済みのバージョンによって異なります。

表 3.1. Asset Managerバージョン番号別のアップグレードタイプ

アップグレードするバージョンの番号	実施する操作のタイプ	参考ドキュメント
バージョン4.2.x、4.3.x、4.4.x、5.0x、または5.1x	通常の場合では、 <b>簡易アップグレード</b> で十分です。  簡易アップグレードが失敗した場合は、 <b>簡易マイグレーション</b> を実施する必要があります。	この章、「Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、5.0x、または5.1xのアップグレード - 概要 [P. 20]」のセクション  『マイグレーション』ガイド
バージョン4.1.xまたはそれ以前	<b>完全マイグレーション</b>	『マイグレーション』ガイド

---

# Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、5.0x、または5.1xのアップグレード - 概要

## アップグレードの理由

- 標準データベース構造（テーブル、フィールド、リンク、およびインデックス）が変更されました。
- 新しい機能が追加されました。

## アップグレード手順の構成

次の場合、アップグレードが必要です。

- 旧フォーマット本番データベースから9.30フォーマットのデータベースに
- Asset Managerプログラムをバージョン9.30に

## 必須要素

アップグレード手順は比較的簡単であり、次のことが必要です。

- Asset Managerの知識（インストール、管理）
- 準備
- 技術的能力：データベース管理
- メソッド

## アップグレード手順

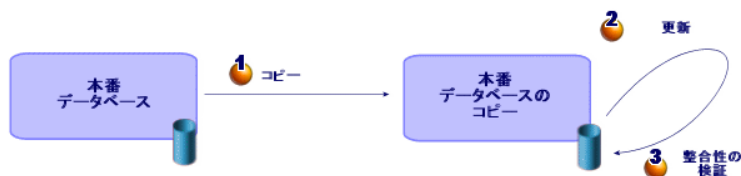
- 1 アップグレード対象コンピュータを準備します。
  - ▶ アップグレード対象コンピュータを準備する [P. 22]
- 2 旧フォーマットの本番データベースを準備します。
  - 1 旧フォーマットの本番データベースの健全性を検証します（オプション）。
    - ▶ 旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [P. 24]
  - 2 必要に応じて、旧フォーマットの本番データベースに調整を加えます。
    - ▶ 旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する [P. 25]
- 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーに対して、アップグレードをテストします。
  - 1 旧フォーマットの本番データベースをコピーします (🔑)。
    - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをコピーする [P. 26]

旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してアップグレードをテストしているときに、ユーザは旧フォーマットの本番データベースの使用を続行することができます。

- 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします (2)。
  - ▶旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [P.27]アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示されない場合は、この章に記載されているようにアップグレードを続行できます。  
アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示される場合は、『マイグレーション』ガイドに記載されているように簡略マイグレーション手順を実施する必要があります。  
この場合、この章に記載されるアップグレード手順は適用できません。
- 3 9.30フォーマットの本番データベースのコピーの整合性を検証します (3)。
  - ▶9.30フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [P. 30]プログラムで問題が発生した場合は、必要に応じて旧フォーマットの本番データベースに修正を加えて、最新バージョンの旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してテストを再開します。  
エラーメッセージがない場合は、次のステップに進みます。
- 4 新しい旧フォーマットの本番データベースのコピーを使用して最終アップグレードを実施します。
  - 1 旧フォーマットの本番データベースをブロックします。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースをブロックする [P. 30]
  - 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成します (1)。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースをコピーする [P. 26]
  - 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします (2)。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [P.27]
  - 4 9.30フォーマットの本番データベースのコピーの整合性を検証します (3)。
    - ▶9.30フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [P. 30]
  - 5 9.30フォーマットの本番データベースのコピーを最終処理するために必要な変更を加えます。
    - ▶9.30フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理 [P. 31]
- 5 Asset Managerプログラムをアップグレードします。
  - ▶Asset Managerプログラムを更新する [P. 33]
- 6 必要に応じて、Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムのアップグレードを実施します。

- ▶ Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする [P. 35]
  - 7 **9.30**フォーマットの本番データベースでAsset Manager Automated Process Managerを起動します。
  - 8 **9.30**フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラムを再起動します。
  - 9 データベースが使用可能であることをユーザに通知します。
- 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースをアップグレードする主な手順は次のとおりです。

## 図 3.1. 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースのアップグレード - 概要



## アップグレード操作の詳細例

ここでは、上記の概要に記載したステップを詳細に説明します。

### 警告:

既存のインストールと対象インストールとの間で必要なアップグレードに対応する手順のみを使用する必要があります。

## アップグレード対象コンピュータを準備する

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、適切なアップグレード対象コンピュータを準備する必要があります。

本章では、アップグレード対象コンピュータにインストールする必要があるものをすべて説明します。

## 旧フォーマットの本番データベースに対応するバージョンのAsset Managerをインストールする

以下の旧フォーマットの本番データベースへアクセスするために必要です。

- 本番データベース
- 本番データベースのコピー

基本モジュールをインストールします。

## 旧フォーマットの本番データベースにアクセスできることを確認する

次の操作を行うために、データベースへのアクセス権限が必要です。

- アップグレード用に旧フォーマットの本番データベースを準備します。
- シミュレート用に旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成し、アップグレードを実施します。

## Asset Manager 9.30をインストールする

少なくとも以下のコンポーネントをインストールします。

- Asset Managerクライアント
- Asset Manager Application Designer
- ドキュメント
- マイグレーション
- データキット
- Asset Manager Export Tool
- HP AutoPass License Management Tool

データベースに適用するすべてのライセンスキーは、HP AutoPass License Management Toolのこのインスタンスにインストールする必要があります。

▶ 『管理』ガイドの「ライセンスキーをインストールする」の章

### ヒント:

HP AutoPass License Management Toolは、インストールするAsset Manager 9.30コンポーネントと共に自動的にインストールされます。

ただし、ライセンスキーのインストールは手動処理です。

## 変換速度を左右する要素

- DBMSの性能
- Asset Manager Application Designerのコンピュータと、旧フォーマットデータベースのコンピュータ間のデータ転送速度
- Asset Manager Application Designerと、旧フォーマットデータベースがインストールされているコンピュータの性能（上記の要素ほど大切ではありません）

### ヒント:

旧フォーマットの本番データベースのサイズが大きい場合、Asset Manager Application Designerがインストールされているクライアントコンピュータをネットワーク上で旧フォーマットのデータベースサーバにできる限り近づけなければなりません（例えばWANを経由しない、など）。特に長いフィールドやバイナリデータを含むテーブルでは注意が必要です（例：**amComment**、**amImage**）。

## 旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

1

### 重要項目:

旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成します。

- 2 最初にオプションとして、旧バージョンのAsset Manager Application Designerを使って、整合性を検証します。

### 警告:

このチェックはオプションです。

有効性のスクリプトと多数のレコードが含まれるテーブルの [レコードの整合性のチェック] オプションをチェックするために、1日以上かかる場合があります。

このようなテーブルでは、有効性のスクリプトはテーブル内の各レコードに対して実行されます。

場合によっては、チェックが終了しないこともあります。

- 1 旧バージョンのAsset Manager Application Designerを起動します。
- 2 旧フォーマットの本番データベースに接続します（ [ファイル/開く] メニューから [既存のデータベースを開く] オプション）。
- 3 データベースの診断画面を表示します（ [アクション/データベースの診断/修復] メニュー）。
- 4 テーブルのリストで [(すべてのテーブル)] を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。
- 6 [レコードの整合性のチェック] オプションのみを選択します。
- 7 [修復] オプションを選択します。
- 8 [実行] をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。



 **警告:**

旧フォーマットの本番データベースのDBMSがDB2である場合、以下の検証作業を行う必要はありません。

次に、9.30フォーマットのAsset Manager Application Designerを使って、整合性を検証します。

- 1 Asset Manager Application Designer 9.30を起動します。
- 2 旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/開く]メニューから[既存のデータベースを開く]オプション）。

 **注意:**

Asset Manager Application Designer 9.30は、旧フォーマットのデータベースと後方互換性があります。

- 3 データベースの診断画面を表示します（[アクション/データベースの診断/修復]メニュー）。
- 4 テーブルのリストで[(すべてのテーブル)]を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。
- 6 [レコードの整合性のチェック]オプションを除くすべての検証オプションを選択します。

 **警告:**

[レコードの整合性のチェック]オプションをチェックできますが、テーブルに有効性のスクリプトと多数のレコードが含まれる場合は多くの時間がかかります。

このようなテーブルでは、有効性のスクリプトはテーブル内の各レコードに対して実行されます。

場合によっては、チェックが終了しないこともあります。

- 7 [修復]オプションを選択します。
- 8 [実行]をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

解析/修復プログラムの詳細については、『管理』ガイドの「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

## 旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する

旧フォーマットの本番データベースのアップグレードを正確に実施するために、最初に特定データ項目を変更する必要があります。

## [amCounter] テーブルを更新する

このセクションの内容は、ストアドプロシージャ **up\_GetCounterVal** を変更したユーザを対象としています。このプロシージャは、次の技術文書の指示に従って **[amCounter]** テーブルを管理します。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Oracle Database Server : TN12516652

上記の技術文書の指示どおりに変更を実行した場合、**up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャは、**[amCounter]** テーブルの一部のレコードを更新できなくなります。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、まず次のことを行います。

- 1 アップグレード後に同じように **up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャを変更したい場合は、そのコピーを作成します。
- 2 **[amCounter]** テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 3 **up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

## 調達モジュールとワークフローモジュール

アップグレード前に実行中のプロセス（部分的に受領した発注、返却予定資産、現在のワークフローなど）の数を減らすことをお勧めします。



### 警告:

また、アップグレード後に問題が発生した場合に参照できるように、旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成することをお勧めします。

## 旧フォーマットの本番データベースをコピーする

### 従来のコピーの問題点

DBMSのツールを使って旧フォーマットの本番データベースをコピーする場合、**Asset Manager Application Designer**以外のツールで実行された以下の要素の追加、変更または削除もコピーされるため、旧フォーマットの本番データベースのコピーは元のデータベースと同一になります。

- インデックス
- トリガ
- ストアドプロシージャ
- ビュー

これらの構造の変更は、アップグレードプログラムで対応することができません。

このため旧フォーマットの本番データベースの変換前に、構造の変更事項を取り消す必要があります。

ここで述べるように、DBMSツールを使用してコピーを作成し、構造の変更を取り消すことをお勧めします。

#### 注意:

旧フォーマットの本番データベースのコピーは、アップグレード対象コンピュータからアクセスできる必要があります。

データベースのコピーの作成方法については、DBMSの付属ドキュメントを参照してください。

#### DBMSツールによる旧フォーマットの本番データベースのコピー

- 1 DBMSツールで旧フォーマットの本番データベースをコピーします。  
作成されたコピーは、元の本番データベースと全く同一です。
- 2 以下の要素に実行された全変更事項を取り消します。
  - インデックス
  - トリガ
  - ストアドプロシージャ
  - ビュー
- 3 旧フォーマットのシミュレーション用データベースへ、Asset Manager接続を作成します。

## 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする

旧フォーマットの本番データベースがAsset Managerバージョン5.20未満でありOracleを使用している場合の前提条件

Oracleに基づくAsset Managerデータベースのバージョン5.20を開始すると、**CLOB/BLOB**データタイプが使用されます。このデータタイプでは、それぞれ**LONG**および**LONGRAW**が以前に使用されました。したがって、データベースアップグレードを続行するために、これらのフィールドを特定してそのデータタイプを変換することが必要になります。

データベースのデータタイプを変換するには、次の手順に従います。

- 1 Asset Manager Application Designerバージョン9.30を起動します。
- 2 **Admin**ログインで旧フォーマットのデータベースのコピーに接続します（**[ファイル/開く/既存のデータベースを開く]**）。

 **重要項目:**

Asset Managerの接続の詳細画面では、次の点に注意します。

- [所有者] フィールドに値を入力してはなりません。
- [ユーザ] フィールドは、データベーステーブルの所有者であるユーザ（データベースの全種のオブジェクトの作成権限があるユーザ）を参照しなければなりません。

- 3 メニューバーから [アクション/テンプレート/フォルダの選択...] を選択します。
- 4 「<Asset Manager 9.30インストールフォルダ>\doc\infos」 フォルダを選択して、 [OK] をクリックします。
- 5 メニューバーから [アクション/テンプレート/リストの更新] を選択します。  
これにより、 [ORACLE batch for BLOB migration(BLOBマイグレーション用のORACLEバッチ)] という名前の新しいオプションが「migratelob.tpl」テンプレートファイルに基づいて [テンプレート] メニューに追加されます。
- 6 メニューバーから [アクション/テンプレート/ORACLE batch for BLOB migration(BLOBマイグレーション用のORACLEバッチ)] を選択します。  
これにより、「migratelob.sql」という名前のOracle SQL+ batchファイルがデフォルトで作成されます。このファイルには、LONGおよびLONGRAWフィールドをそれぞれCLOBおよびBLOBに変換するための指示が含まれます。
- 7 ORACLE SQL+ Promptなどのデータベースユーティリティを使用して、「migratelob.sql」バッチファイルを実行します。例：

```
SQL> @C:\Users\encornet\AppData\Local\Temp\migratelob.sql
```

これにより、フィールドが新しいデータタイプに変換され、その後に標準データベースのアップグレードが続行されます。

 **重要項目:**

Asset ManagerデータベースにODBC接続で直接アクセスする解決策を作成した場合、旧フォーマットの本番データベースがバージョン9.30にアップグレードされた後に、解決策によってLONGおよびLONGRAWデータタイプにアクセスした統合の更新が必要になります。

### 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする

旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードするには：

- 1 Asset Manager Application Designerバージョン9.30を起動します。
- 2 **Admin**ログインで旧フォーマットのデータベースのコピーに接続します（ [ファイル/開く/既存のデータベースを開く] ）。

 **重要項目:**

Asset Managerの接続の詳細画面では、次の点に注意します。

- [所有者] フィールドに値を入力してはなりません。
- [ユーザ] フィールドは、データベーステーブルの所有者であるユーザ（データベースの全種オブジェクトの作成権限があるユーザ）を参照しなければなりません。
- Microsoft SQL Serverでは、テーブルの所有者が**dbo**である場合、接続ログインは、**dbo.<テーブル>**の形でデフォルトのテーブルを作成しなければなりません（特にログイン**sa**の場合）。

3 [マイグレーション/データベースを更新] を選択します。

 **注意:**

旧フォーマットの本番データベースがマルチリンガルである場合（▶『管理』ガイド、「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章、「Asset Managerクライアント言語を変更する」のセクション）、ウィザードのいずれかのページによって旧フォーマットの本番データベースの追加言語に加えられたカスタマイズを継承させることができます。これには、Asset Managerバージョン9.30が各追加言語バージョンで使用可能であり、変換に使用するコンピュータにこれらの言語のAsset Managerをインストールすることが必要です。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプを除いて、すべてのマルチリンガル要素がカスタマイズを継承します。

言語Xへのカスタマイズを自動的に継承するには、その言語のAsset Managerが使用可能である必要があります。

既に使用可能になっている言語でアップグレードを実行することもできますが、言語Xに対するカスタマイズを継承することはできません。その言語に対してAsset Manager 9.30が使用可能になったときに、言語Xを**9.30**フォーマットの本番データベースに挿入します。旧フォーマットの本番データベースに行ったカスタマイズは、手動で伝達する必要があります。

4 ウィザードの指示に従います。

### ヒント:

[入力タイプ] パラメータが [コメント] であるリンクをアップグレードするには、相当時間がかかります（大規模データベースの場合で数時間が必要です）。

この段階でメッセージが表示されないため、アップグレードプロセスが実行中であるかどうか疑問に思うかもしれません。

これを確認するには、アップグレード対象コンピュータまたはデータベースサーバのシステムアクティビティ（CPUまたはI/Oレベル）を調査します。

- 5 変換ログファイル「sdu.log」を参照します。

## 9.30フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

- 1 Asset Manager Application Designer 9.30を起動します。
- 2 **9.30フォーマットの本番データベースのコピー**に接続します（[ファイル/開く]、[既存のデータベースを開く] オプション）。
- 3 データベースの診断画面を表示します（[アクション/データベースの診断/修復] メニュー）。
- 4 テーブルのリストで [(すべてのテーブル)] を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。
- 6 [レコードの整合性のチェック] オプションを除くすべての検証オプションを選択します。
- 7 [解析のみ] オプションを選択します。
- 8 [実行] をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

解析/修復プログラムの詳細については、『管理』ガイドの「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

## 旧フォーマットの本番データベースをブロックする

「旧フォーマットの本番データベースをブロックする」とは、アップグレードの最中に変更が加えられないために旧フォーマットの本番データベースを使用できないようにすることです（この場合、変更については考慮されません）。

以下の操作を行います。

- 1 すべてのユーザの旧フォーマットの本番データベースへの接続を解除します。
- 2 以下のプログラムを終了します。
  - Asset Manager Automated Process Manager
  - Asset Manager API

- 旧フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラム
- 3 旧フォーマットの本番データベースへのアクセスをブロックします。

## 9.30フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理

### アップグレード正常終了の確認

アップグレード処理が正常に行われたことを確認することをお勧めします。  
確認するには次の方法があります。

- **9.30フォーマットのデータベースのコピー**を目視確認して明らかにおかしい点がないか探します。
- いくつかのテーブルのレコード数をアップグレード前後で比較します。

### ストアドプロシージャup\_GetCounterValの変更

このセクションの内容は、旧フォーマットの本番データベースで **up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャを変更したユーザを対象としています。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、次の作業を実行します。

- 1 **[amCounter]** テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 2 **up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

以下のテクニカルノートの指示に従って、**up\_GetCounterVal** ストアドプロシージャを新規に調整します。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Oracle Database Server : TN12516652

### フィールドのヘルプ (オプション)

フィールド (とリンク) のヘルプは **[フィールドのヘルプ]** (amHelp) テーブルに格納されています。

アップグレード処理でこのテーブルの内容は変更されません。

フィールドのヘルプをアップグレードしたい場合は、『マイグレーション』ガイドの「段階を追ってマイグレーションを実行する - 最終変換 (マイグレーションデータベース)」の章、「手順20 - 9.30フォーマットのマイグレーションデータベースを最終確認する」のセクション、「すべてのバージョンの旧フォーマットの本番データベースに関する最終確認」、「フィールドのヘルプ」を参照してください。

### Asset Manager 9.30付属の標準レポートをインポートする

[サンプルデータ] に含まれるレポートを、**9.30フォーマットの本番データベースのコピー**にインポートするには：

- 1 Asset Manager Application Designerを起動します。
- 2 [ファイル/開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 Asset Manager 9.30のインストール先フォルダの「config」サブフォルダの「標準9.30 gbbase.xml」ファイルを選択します。
- 5 [アクション/データベースの作成] を選択します。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します)。  
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ:

フィールド	値
データベース	9.30フォーマットの本番データベースのコピーを選択します。
作成 高度な作成オプションを使用	専門分野データをインポートします。 このオプションは選択しません。

[作成パラメータ] ページ:

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	<p><b>注意:</b></p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、[部署名/姓] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。</p> <p>データベース接続ログインは [ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名は「Admin」です。</p> <p>パスワードは [パスワード] (LoginPassword) フィールドに保存されます。</p>

[インポートするデータ] ページ:

フィールド	値
使用可能データ	[Crystal Reports] オプションを選択します。
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。



フィールド	値
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

7 ウィザードで定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

### ユーザ権限、アクセス制限および機能権限

データベース構造に、新規テーブル、フィールド、リンクが追加されたので、ユーザプロファイルのユーザ権限、アクセス制限および機能権限を適用する必要があります。

既存の権限と制限に新しいテーブル、フィールド、リンクを追加します。必要があれば新しい権限および制限を作成します。

## Asset Managerプログラムを更新する

管理用コンピュータとクライアントコンピュータで、全てのAsset Managerプログラムを更新する必要があります。

Asset Managerと共に使用する任意のプログラムのバージョンが、Asset Manager 9.30と互換性があるかどうかを確認します。必要に応じて、これらのプログラムのアップグレードを実行します。

Asset Managerプログラムの一覧と、Asset Managerと共に使用するプログラムの一覧について：▶ [Asset Managerのコンポーネント](#) [P. 11]

Asset Manager 9.30と互換性のあるプログラムのバージョンを確認するには、HPのカスタマサポートのサイトを参照してください。

### ヒント:

互換性の詳細については、「▶ [Windowsでの設定（Asset Manager Webを除く）](#) [P. 51]」の章を参照してください。

## Asset Manager Automated Process Managerを管理用コンピュータにインストールする

Asset Manager Automated Process Managerは、Asset Managerデータベースにおける自動処理タスクを実行します。Serverが起動されていないと、Asset Managerは正しく作動しません。

このため、次の操作を行う必要があります。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerをクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 Asset Manager Automated Process Managerを適切に設定します。
- 3 Asset Manager Automated Process Managerを常時稼動にします。

Asset Manager Automated Process Managerの機能の詳細については、『[管理](#)』ガイドの「[Asset Manager Automated Process Manager](#)」の章を参照してください。

## 9.30フォーマットの本番データベースのコピーにあるAsset Managerキャッシュを削除する

9.30フォーマットの本番データベースのコピーに接続するためにキャッシュを使用している場合は、削除することをお勧めします。

キャッシュに関する詳細は、『はじめに』ガイドの「参考情報」の章、「接続／Asset Managerのパフォーマンス」のセクションを参照してください。

### Asset Managerプログラムを更新する

プログラムを更新するには：

- 1 Asset Managerの旧バージョンをアンインストールします。

#### ヒント:

Asset Manager 9.30を交換用コンピュータにインストールする場合は、Asset Managerの旧バージョンをしばらく保存しておいてください。

アンインストールの手順（Asset Managerを削除するための保護対策、手順と方法）については、削除する対象のAsset Managerバージョンの『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

- 2 Asset Manager 9.30をインストールします。

インストール手順に関する情報（注意事項、方法、Asset Managerインストールの各種方法）については、このガイドの他の章を参照してください。

#### 注意:

Asset Manager 9.30インストールプログラムでは、Asset Manager 4.3.2以前のインストール済みバージョンが検索されません。

### Asset Managerが正常に起動することを確認する

Asset Manager 9.30の起動時に問題が発生した場合は、ユーザサポートに連絡してください。

### 古い接続を削除して、新しい接続を作成する

この目的は、9.30フォーマットの本番データベースのコピーにユーザが確実に接続することです。

『はじめに』ガイドの「参考情報」の章、「接続」のセクションを参照してください。

古い接続を変更することも可能です。

必要に応じて、接続用にAsset Managerキャッシュを作成します。

## Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする

### Asset Manager Web

Asset Manager Webを9.30バージョンに更新します。

Asset Manager Webの標準ページのみを使用する場合、この操作のみです。これにより、Asset Manager Webの新しい標準ページを使えるようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 Asset Manager Webを9.30バージョンに更新します。
- 3 各Webページをテストし適応させます。

### Get-It

Get-It関数で開発されたWebアプリケーションをAsset Manager 9.30データベースで機能させるには：

- 1 Asset Manager 9.30のサポート表（HPのカスタマサポート用Webサイト参照）に、使用中のGet-Itバージョンがあるかどうかを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Itを更新します。
- 3 カスタマイズした各Webページをテストし適応させます。

### Get-Resources

Get-ResourcesをAsset Manager 9.30データベースと連携させるには：

- 1 Asset Manager 9.30のサポート表（HPのカスタマサポート用Webサイト参照）に、使用中のGet-Resourcesバージョンがあるかどうかを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。

Get-Resourcesの標準ページのみを使用していた場合は、この操作で十分です。これにより、Get-Resourcesの新規の標準ページを使用するようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。
- 3 カスタマイズした各Webページをテストし適応させます。

### HP Connect-Itシナリオ

HP Connect-Itを使って9.30フォーマットの本番データベースのコピーにアクセスするには、Asset Manager 9.30付属のHP Connect-Itのバージョンを使用しなければなりません。

HP Connect-Itの既製シナリオを使用していた場合、移行後は新規の既製シナリオを使用します。

独自のシナリオを作成した場合：

- 1 既製シナリオ以外の旧シナリオを保存します。
- 2 HP Connect-Itをアップグレードします。
- 3 HP Connect-Itでシナリオを1つずつ開きます。
- 4 各シナリオで、以下の操作を行います。
  - 1 シナリオを開く際にHP Connect-Itで警告メッセージが表示される場合は、メッセージを確認します。
  - 2 警告メッセージに応じてシナリオを訂正します。
  - 3 テスト用データを使ってシナリオを実行します。
  - 4 テスト中に問題が発生する場合は、問題点を訂正します。

## バージョン9.30システムデータをインポートする

- 1 Asset Managerを起動します。
- 2 ブロックされた旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。
- 3 [ファイル/インポート] メニューを選択してから、[スクリプトの実行] オプションを選択します。
- 4 スクリプト「upgrade.lst」を選択します（通常は、フォルダ「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\migration\fromxxx」にあります。ここで、xxxは旧フォーマットの本番データベースのバージョンです）。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。
- 7 この操作によって取得するデータベースを**9.30フォーマットの本番データベース**と呼びます。

## 4 Windowsでのインストールとアンインストール（Asset Manager Webを除く）

この章ではAsset Managerを初めてインストールする方法を説明します。

---

### Asset Managerインストール前の注意事項

#### アンチウイルスプログラムをオフにする

Asset Managerのインストール中にアンチウイルスプログラムを起動していると、レジストリへのアクセスが遮断されるため、インストールプログラムが正常に機能しない場合があります。

このため、Asset Managerのインストール前にアンチウイルスプログラムを終了することをお勧めします。

#### Oracleクライアント層のインストール

Oracleクライアント層（SQL\*NetまたはNet 8）を不適切にインストールすると、アクセント記号のついた文字がAsset Managerでは適切に処理されない可能性があります。この問題は、例えばアクセント記号付きの文字を含むレコードの挿入時に発生します。このレコードを再選択すると、テキストは正常に表示されません。この問題を解決するには、SQL\*NetまたはNet 8の設定を確認してください。

## SAP Crystal Reportsのインストールの有無

Asset Managerのインストールを実行する前に、SAP Crystal Reportsランタイム（限定バージョン）をインストールする必要があるかどうかを決定します。

8.5、9、10、11、または12のフルバージョンがインストールされている場合、SAP Crystal Reports 12ランタイムをインストールしないでください。

### 注意:

SAP Crystal Reportsランタイムのインストールは、Asset Managerのインストールプログラムと共に実行されます。

## Windowsへのインストール

ソフトウェアをインストールするマシン上にWindows管理者権限が必要です。管理者権限でログインしないと、インストールプログラムはレジストリを変更できません。

## クライアント/サーバ型インストール

- 1 DBMSをサーバとクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 クライアントとサーバ間の通信をテストします。
- 3 各クライアントコンピュータにAsset Managerをインストールします。

### 重要項目:

Asset Managerをインストールする際に、SQL Server 2005 DBMSを使用している場合は、添付のデータベース手順でWindows 認証オプションを選択します。これは、ログインとパスワードでの認証方法（たとえば「sa」ログイン）を選択すると、データベースの添付が妨げられるというSQL Server 2005の問題に対する回避策です。

## クライアントコンピュータへ迅速にインストールする

「amdb.ini」ファイルには、[ファイル/接続の管理] メニューにある接続のリストが含まれています。

このファイルの場所: ▶ 「.ini」および「.cfg」ファイル [P. 103]

これらのオプションを各クライアントコンピュータのGUIで定義する代わりに、一台のマシンでオプションを定義した後「amdb.ini」ファイルを各クライアントコンピュータにコピーします。

### ヒント:

Asset Managerの完全インストール（セットアッププログラムで**Typical**と呼ばれる）を実行すると、時間が相当かかる場合があります。これは、インストールとその後のアンインストールおよび更新にも当てはまります。

多くの場合、全プログラム機能のインストールが必要になるわけではありません。これは、通常のAsset Managerクライアントをインストールする場合に特に当てはまります。

その場合は、セットアップ画面の最初のページで、**Custom**を選択して、[次へ]をクリックします。

次の画面で、通常省略する機能を以下に示します。

- Asset Manager Automated Process Manager
- データベース管理（Asset Manager Application Designerおよびデータベースマイグレーションを含む）
- デモ用データベース
- バーコードリーダー
- WebサービスとWebクライアント

## 複数言語でのAsset Managerのインストール

Asset Manager Windowsクライアントは、同一のコンピュータに複数の言語でインストールすることができます。


これを行う場合は、言語バージョンごとに別々のフォルダにインストールする必要があります。

デフォルトでは、インストールバージョンは言語バージョンに関わらず同一のインストールフォルダを使用します。

## Asset Managerを64ビットWindowsシステムにインストールする

Asset Manager Windowsクライアントを64ビットのWindowsシステムにインストールする場合：

- ODBCデータソースは、[コントロールパネル/管理ツール/データ ソース (ODBC)] で作成しないでください。ODBCのこのインスタンスは64ビットであり、Asset Managerでは動作しません。

ODBCデータソースの作成には、Asset Managerを使用してください。その処理は、[接続の管理] ウィンドウ（ファイル/接続の管理）の[データソース] フィールドの隣にある  ボタンを使用して実行できます。

- Asset Manager Windowsクライアント上にMicrosoft SQLデータベースへの接続を作成する場合は、[接続の管理] ウィンドウの[システム接続] ボックスが選択されていないことを確認してください。

Asset Managerのデモ用データベースをMicrosoft SQL Serverの64ビットインスタンスにインストールする場合は、以下の手順を実行する必要があります。

- 1 32ビットのレジストリエディタを開きます。パス：  
「C:\Windows\SysWOW64\regedit.exe」。
- 2 「HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server」を選択します。
- 3 メニューバーの【編集】をクリックします。
- 4 ドロップダウンメニューから【新規/文字列値】を選択します。
- 5 名前として「**InstalledInstances**」を入力し、【Enter】キーを押します。
- 6 作成した文字列値をダブルクリックします。
- 7 【値データ】フィールドに、Asset Managerのデモ用データベースをインストールする64ビットSQL Serverインスタンスの名前を入力します。

---

## 手動インストール (GUI)

- 1 インストール用CD-ROMを挿入します。
- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
  - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
  - 2 インストール用CD-ROMを選択します。
  - 3 CD-ROMのルートディレクトリを選択します。
  - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 3 オプション【**Asset Manager 9.30のインストール**】を選択します。
- 4 インストールプログラムの指示に従います。



### ヒント:

Asset Managerの完全インストール（セットアッププログラムで**Typical**と呼ばれる）を実行すると、時間が相当かかる場合があります。これは、インストールとその後のアンインストールおよび更新にも当てはまります。

多くの場合、全プログラム機能のインストールが必要になるわけではありません。これは、通常のAsset Managerクライアントをインストールする場合に特に当てはまります。

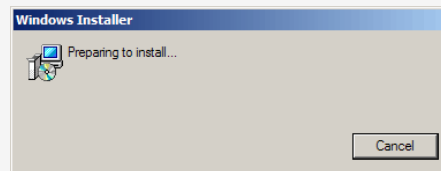
その場合は、セットアップ画面の最初のページで、**Custom**を選択して、[次へ] をクリックします。

次の画面で、通常省略する機能を以下に示します。

- Asset Manager Automated Process Manager
- データベース管理（Asset Manager Application Designerおよびデータベースマイグレーションを含む）
- デモ用データベース
- バーコードリーダー
- WebサービスとWebクライアント

### 警告:

インストール時に、次の種類のポップアップウィンドウが数回表示されます。



これは正常な動作です。

[キャンセル] をクリックしないでください。

キーボードの [Enter] を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、インストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧めします。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに [Enter] を押してしまう可能性があります。

---

## 手動アンインストール (GUI)

### Asset Managerをアンインストールする前に

#### デモ用データベースをインストールした場合

デモ用データベースは、アンインストール時に削除されます。

デモ用データベースを残しておきたい場合は、コピーを作成しておく必要があります。

▶デモ用データベースのコピーを作成する方法については、デモ用データベースに対して使用するDBMSの付属ドキュメントを参照してください。

#### 注意:

場合によっては、SQL Serverなどのサービスを一時的に停止する必要があります。これらのサービスは、データベースにアクセスするので、ファイルをロックしてファイルの削除を妨げる可能性があります。

#### Webクライアントをインストールした場合

Asset Managerをアンインストールする前に、アンインストールの対象となるファイルをアンロックするために、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceが使用しているアプリケーションサーバを停止する必要があります。

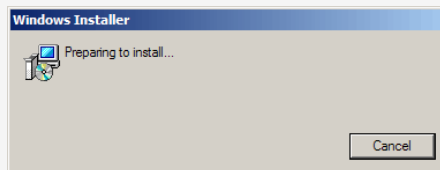
また、例えばTomcatサブディレクトリにAsset Manager Web展開の一部として手動でコピーしたAsset Manager ファイルを手動で削除する必要があります。これにより、Asset Managerを再インストールまたはアップグレードするときにファイルの非互換性を回避できます。Asset Manager Webのアンインストール [P. 99]を参照してください。

### Asset Managerをアンインストールする

Asset Managerをマシンから完全に削除するには、Windowsコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を使用します。

 **警告:**

アンインストール時に、次のようなポップアップウィンドウが数回表示されます。



これは正常な動作です。

[キャンセル] をクリックしないでください。

キーボードの [Enter] を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、アンインストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧めします。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに [Enter] を押してしまう可能性があります。

アンインストールプログラムは通常、以下の操作を実行します。

- インストールされた全ファイルとプログラムグループを削除します。
- Asset Managerのインストールプログラムが加えた変更事項を、設定ファイルから削除します。
- レジストリを更新します。

 **注意:**

場合によっては、ファイルロックなどの理由で自動アンインストーラが失敗し、特定のファイルまたはフォルダが削除されます。アンインストール後に、次のフォルダの有無を確認して、必要であれば手動でフォルダを削除します。

- Asset Managerのインスタンス。例えば、C:\Program Files\HP\に存在します。
- [スタート] メニューのAsset Managerプログラムグループおよびショートカット。例：C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\HP

## 自動インストールとアンインストール（コマンドライン）

このセクションでは、次のポイントを説明します。

- 概要 [P. 44]
- 準備 [P. 44]

- 実行 [P. 46]
- コマンドラインからアンインストールを実行する [P. 48]

## 概要

コマンドラインのインストールを使用すると、複数のコンピュータに対して Asset Manager のインストールを標準化および自動化することができます。コマンドラインからインストールを実行するためには、特定のパラメータを定義する必要があります。

Asset Manager インストールパラメータは、「.msi」ファイル内で定義されます。

デフォルトで Asset Manager インストール CD-ROM 上で提供されるファイルは、「AssetManager.msi」という名前です。

「.msi」ファイルの変更は、**Orca** という名前の Microsoft のプログラムによって実行されます。

Orca は、設定を実行するために使用するコンピュータにインストールする必要があります。

## 準備

### Orca をインストールする

Orca をインストールするには：

- 1 Microsoft Internet Explorer を起動します。
- 2 次の URL を表示します。

[http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/orca\\_exe.asp](http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/orca_exe.asp)

- 3 指示に従います。

### Orca の使用に関するヘルプの取得

Orca のドキュメントを表示するには：

- 1 インターネットブラウザを起動します。
- 2 次の URL を表示します。

<http://support.microsoft.com/kb/255905/>

### 「.msi」ファイルと setup.exe および msixexec.exe パラメータに関するヘルプを取得する

これらのファイルに関するドキュメントを表示するためには、Microsoft Platform SDK オンラインヘルプを参照してください。

このオンラインヘルプは、Windows の [スタート/プログラム/**Microsoft Platform SDK XXX / Platform SDK Documentation**] メニューで表示できます。

## Asset Managerインストールを設定する

Asset Managerインストールを設定するとは、「AssetManager.msi」ファイルをOrcaで変更することです。



### 警告:

「AssetManager.msi」ファイルの変更はできますが、名前は変更できません。

ここでは、「.msi」ファイルの特定パラメータについてのみ説明します。

その他すべてのパラメータについては、「.msi」ファイルのヘルプを参照してください。

- 1 Windows Explorerを起動します。
- 2 Asset Managerインストール元フォルダ（インストールCD-ROM、「am」フォルダ）の内容をハードドライブ（例えばC:\Temp\am\）にコピーします。
- 3 Orcaを起動します。
- 4 「AssetManager.msi」ファイルを開きます（[ファイル/開く]）。これは、CD-ROMの内容をコピーしたフォルダにあります。
- 5 インストールするコンポーネントを設定します。

- a [Tables] 列で「Feature」を選択します。

インストールの可能性があるコンポーネントのリストがOrcaによって表示されます。

[Title] 列では、コンポーネントを特定することができます。

[Level] 列では、コンポーネントのインストール方法を管理することができます。

- b 次に示すように、コンポーネントごとに [Level] 列を入力します。

[Level] 列の値	コマンドラインからのインストール動作	「Typical」のGUIインストール動作	「Custom」のGUIインストール動作
0	インストールされない	インストールされない	使用不可能
1	インストールされる	インストールされる	使用可能でデフォルトで選択される
200	インストールされない	インストールされない	使用可能だがデフォルトで選択されない

- 6 Windowsの [スタート] メニュー用に作られるプログラムグループを設定します。

例えばデフォルトでは、Asset Managerは [スタート/プログラム/HP/Asset Manager 9.30 <言語>/Client] にインストールされます。

パスを変更するには：

- a [Tables] 列で「Shortcut」を選択します。

1行ごとにプログラムグループの各項目が表示されます。

**[Name]** 列では、項目を特定することができます。

**[Directory]** 列では、項目を作成するプログラムグループを表しています。

それは、プログラムグループのパスを保存する **[Directory]** テーブルのあるレコードの識別子です。

- b 変更するプログラムグループの識別子を記録しておきます。

例：Asset Managerクライアントは、**[Name]** 列の値

「**HP | HP Software Asset Manager**」によって識別されます。

**[Directory]** 列の値は「**newfolder2**」です。この値を記録しておきます。

- c **[Directory]** テーブル内でこれらの識別子をそれぞれ検索します。

- d **[Tables]** 列で **[Directory]** を選択します。

- e **[Directory]** 列のヘッダーをクリックしてソートします。

- f 変更するプログラムグループごとに、**[Directory]** 列でその識別子を選択し、**[DefaultDir]** 列の値を変更します。

この例では、「**newfolder2**」を検索します。



#### 警告:

ソートは大文字と小文字を区別します。そのため、「**newfolder2**」はリストの最後にあります。

- 7 設定を保存します（**[File/Save]** メニュー）。

- 8 終了します（**[File/Close]** メニュー）。

## 実行

### 概要

インストールを開始するには、Asset Manager CD-ROMの「**setup.exe**」を実行します。

「**setup.exe**」で使用可能なパラメータは、次のコマンドで表示できます。

```
setup.exe /?
```

パラメータにより初期化ダイアログボックスを非表示にする例を示します。

```
setup.exe /S
```

- 1 「**setup.exe**」は、Windowsがデフォルトでインストールする「**MsiExec.exe**」プログラムをインストールまたはアップグレードします。

- 2 「setup.exe」は、Orcaを使ってカスタマイズした「AssetManager.msi」ファイルの設定でインストールを行う「MsiExec.exe」プログラムを始動します。「MsiExec.exe」で使用可能なパラメータは、次のコマンドで表示できます。

```
MsiExec.exe /?
```

 **警告:**

このオプションは、**MsiExec** バージョン3以降でのみ使用できます。これより前のバージョンの場合、「MsiExec.exe」のバージョンに対応したドキュメントを参照してください。

GUIを使わない無人インストールを可能にするパラメータの実行例を次に示します。

```
MsiExec.exe /qn
```

パラメータを「setup.exe」によって「MsiExec.exe」に送信するには、パラメータの先頭に以下の文字を付ける必要があります。

```
/V
```

無人インストールを可能にするパラメータの実行例は次のとおりです。

```
setup.exe /V/qn
```

 **警告:**

/Vの後にコマンドを続ける場合は、必ずスペースなしで/Vに続ける必要があります。

## コマンドラインからインストールを実行する

コマンドラインからAsset Managerをインストールするためには、さまざまな方法があります。

このセクションでは次の特徴を持つインストールの例を示します。

- ダイアログボックスを開かずに「setup.exe」を実行する。
  - ユーザ入力、GUIなしで、「msiexec.exe」を実行する。
  - インストールプログラムによるメッセージを「C:\Temp\log.txt」ファイルに保存する。
  - Asset Managerをフォルダ「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx」にインストールする。
- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
  - 2 「setup.exe」プログラムファイルとカスタマイズ可能な「AssetManager.msi」ファイルがあるAsset Managerインストール元フォルダに移動します。
  - 3 以下のコマンドを実行します。

- `setup.exe /S /V"/qn /l* C:\Temp\log.txt INSTALLDIR="C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\""`

解説：

- **setup.exe:** 「msiexec.exe」のローカルバージョンをテストして必要な場合は更新するために、「setup.exe」によってインストールを始動します。

 **注意:**

Asset Managerのインストールでは、バージョン2以上が必要です。

- **/S:** 「setup.exe」を初期化ダイアログボックスなしで実行します。
- **/V:** 後に続くパラメータが「msiexec.exe」に送られます。  
**/V**の後のコマンドは、全体をダブルクォーテーションマークで囲みます。
- **/qn:** 「msiexec.exe」をユーザ入力またはGUIなしで実行します。
- **/l\* C:\Temp\log.txt:** インストールプログラムの大部分のメッセージを「C:\Temp\log.txt」ファイルに保存します。
- **INSTALLDIR="C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\":** Asset Managerを「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx」フォルダにインストールします。  
パスの中の**Program**と**Files**の間にスペースを入れるために、「\"を使用していることに注意してください。

4

 **注意:**

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。インストールが完了しても通知はされません。

ログファイル（上記の例ではC:\Temp\log.txt）の最後の行に「**Installation complete**」と書かれていれば、インストールは完了しています。

## コマンドラインからアンインストールを実行する

コマンドラインからAsset Managerをアンインストールするには、さまざまな方法があります。

次の例をお勧めします。

- 1 Asset Managerアンインストールに相当するレジストリキー番号を特定します。
  - a レジストリエディタ「regedit.exe」を起動します（Windowsの [スタート / ファイル名を指定して実行] メニュー）。
  - b 「HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\」を展開します。
  - c Asset Managerに対応するキーを検索します。中括弧で囲まれたキーの詳細を表示し（左側のパネル）、[**DisplayName**] フィールドの値を確認



します（右側のパネル）。このフィールドには名前Asset Managerとそのバージョンが含まれます。

- d このキーを選択します。
- e キーの名前をコピーします（ [キー名のコピー] ショートカットメニュー）。

対象となる部分は、次に示すように中括弧の間にあります。例：

```
{A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1}
```

- f レジストリエディタを終了します。

2 DOSコマンドプロンプトを開きます。

3 次の形式でコマンドを実行します。

- `msiexec.exe /x <レジストリキー> /qn /!* <ログファイルの完全パス>`

例：

```
msiexec.exe /x {A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1} /qn /!* C:\Temp\log.txt
```

解説：

- ▶ コマンドラインからインストールを実行する [P. 47]
- `/x`: 「msiexec.exe」によりアンインストールを実行します。

#### 注意:

コマンドラインからアンインストールを実行する場合、一部のみをアンインストールすることはできません。

4

#### 注意:

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。アンインストール完了の通知はありません。

ログファイル（上記の例では `C:\Temp\log.txt`）の最後の行に **Uninstallation completed successfully** のテキストがあれば、アンインストールは完了しています。



## 5 Windowsでの設定（Asset Manager Webを除く）

Asset Managerプログラムがインストールされたら、インストールを完了するため、さらにいくつかの手順が必要です。これらの手順は使用する、またはAsset Managerと統合するコンポーネントとアプリケーションにより異なります。

この章では、これらの補足操作について説明します。

---

### Oracle DLL

Oracleアクセス用のDLLには複数のバージョンがあります。Asset Managerはサポートされているバージョンを動的に読み込もうとします。まずバージョン番号の高いDLLからはじめ、サポートされている古いバージョンへと移行します。

- 1 oraclient10.dll
- 2 oraclient9.dll
- 3 oraclient8.dll

ただし、「am.ini」ファイルに以下のような項目を追加すれば、この順序を変更して特定のDLLファイルを読み込むこともできます。

```
[DLL] orcl = <xxx>.dll
```

このファイルの場所：▶ 「.ini」および「.cfg」ファイル [P. 103]

## メッセージシステム

### Windows上でサポートしているメッセージシステムの標準規格

- VIM
- Extended MAPI
- SMTP

#### 注意:

Simple MAPIはサポートされていません。

### 外部メッセージシステムのインストール

Asset Managerで外部メッセージシステムを正常に機能させるには、次の条件が必要です。

メッセージシステムの標準規格	必要な条件
VIM	システムのPATH環境変数に、「vim32.dll」ファイルが入っているフォルダのパスが指定されている必要があります。 例：Lotus NotesのDLLファイルは一般にNotesによりNotesと同じフォルダにインストールされます。PATHは通っていません。
SMTP	TCP/IPレイヤを必ずインストールします。 SMTPメッセージシステムを正しくインストールした場合には注意します。

### Asset Managerから外部メッセージシステムにメッセージを送信するための設定

メッセージシステムの機能を最大限に利用するには、次の作業を行う必要があります。

必要な作業	参考ドキュメント
管理者およびユーザのメッセージ用アドレスを指定する。	『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章、「Asset Managerでメッセージシステムを指定する」のセクション
調達、テクニカルサポート、アラームなどで使う「メッセージ」タイプのアクションを作成する。	『高度な使い方』ガイドの「アクション」の章、「アクションの作成」のセクション、「[メッセージ] タブページに入力する」
調達、テクニカルサポート、アラームなどにリンクされているメッセージを送信するためにAsset Manager Automated Process Managerを設定する。	『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章

必要な作業	参考ドキュメント
Asset Manager Automated Process Managerを実行します。	『管理』ガイドの「 <b>Asset Manager Automated Process Manager</b> 」の章
トラブルシューティング	『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章、「一般的な接続エラー」のセクション

メッセージシステムの使用については、『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章で詳細を説明しています。

## Asset Manager Automated Process Manager

Asset Manager Automated Process ManagerはAsset Managerクライアントから独立したプログラムです。調達、在庫、履歴、またはリースのドメインでトリガされるアラーム、メッセージやアクションをモニタしたり、特定のフィールドの値を計算したりします。

これらの処理が正しく行われるために、ユーザは先ず、少なくとも1台のコンピュータ上でAsset Manager Automated Process Managerを常時稼動してから、本番データベースに接続する必要があります。

WindowsクライアントやWebクライアントがデータベースに接続するには、以下に挙げる条件が必要です。

- Asset Manager Automated Process Managerが実行中で、データベースに接続する必要があります
- Asset Manager Automated Process Managerデータベースサーバに信号送信 (UpdateToken) モジュールがアクティブであり、少なくとも1週間に1回実行されるようにスケジュールされている必要があります。

Asset Manager Automated Process Managerの詳細については、Asset Manager 『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章を参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerのモジュールはHP Connect-Itとそのコネクタを使用し、以下のようなデータの自動インポートを実行します。

- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory棚卸アプリケーションによって実行される棚卸。
- 外部アプリケーションからのデータのインポート

このようなモジュールを使用する場合はHP Connect-Itをインストールします。

HP Connect-Itの動作環境、およびインストール方法についてはHP Connect-Itのドキュメントを参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerとHP Connect-Itの統合方法については、Asset Managerの『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」章の「**Asset Manager Automated Process Manager**でモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

## WindowsでAsset Manager Automated Process Managerを導入する

このプログラムを使用できるようにするには、少なくとも1台のコンピュータにサポートバージョンのWindowsをインストールする必要があります。

Asset Manager Automated Process Managerは以下のいずれかの方法で起動できるようにインストールされます。

- Windowsの【スタート】メニューのショートカットから手動で起動
- サービスとして自動的に起動

### ヒント:

Asset Manager Automated Process Managerは、サービスとして起動することをお勧めします。





### 注意:

Asset Manager Automated Process Managerサービスを適切にインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Windowsでユーザアカウントを作成します（このサービスをインストールする予定のコンピュータで）。  
このアカウントには、Asset Manager Automated Process Managerサービスの起動に必要な権限がなければなりません。  
このアカウントにリンクする環境で、Asset Manager Automated Process ManagerサービスがインストールされているコンピュータにインストールされたDBMSのクライアント層の使用が許可されている必要があります。  
ローカルシステムアカウントは、デフォルトではシステムの環境変数にしかアクセスしません。
- 2 Asset Manager Automated Process Managerサービスをこのアカウントでインストールします。

デフォルトでは、このプログラムのサービスが自動的に起動するように設定されていますが、これは変更可能です。

コントロールパネルの【サービス】を使うと、コンピュータで使用可能なWindowsサービスを開始、停止、設定できます。

- Windowsのバージョンに応じて、以下のように動作します。
  -  ボタン：停止しているサービスを開始します。
  -  ボタン：サービスを停止します。
  -  ボタン：サービスを再起動します。
  -  ボタン：サービスを中断します。

Asset Manager Automated Process Managerサービスを、Windowsの自動モードで起動するには：

- 1 サービスのウィンドウからAsset Manager Automated Process Managerサービスを選択します。
- 2 右クリックし、ポップアップメニューで【プロパティ】を選択します。
- 3 【スタートアップの種類】フィールドを【自動】にします。

 **注意:**

Asset Manager Automated Process Managerの場合は、一度正常に動作することを確認したら、スタートアップモードを【自動】に設定して、Windowsの起動時に自動的に開始させることをお勧めします。

 **注意:**

サービスは、デフォルトでWindowsのシステムアカウントを使用します。Asset Manager Automated Process Managerがデータベースに接続できない場合は、【スタートアップ】ボタンをクリックして、データベースにアクセスできるアカウントを使うようにサービスを設定します。

---

## SAP Crystal Reports

Crystal Reportsのインストール、設定と使用については、『高度な使い方』ガイドの「**SAP Crystal Reports**」の章を参照してください。

---

## HP Connect-Itとの統合

Asset ManagerにはHP Connect-It完全版と、ドキュメントが付属しています。

### 必要なConnect-Itのバージョン

HP Connect-ItとAsset Managerを統合するには、Asset Managerインストール用CD-ROMに提供されているHP Connect-Itのバージョン、またはそれ以降が必要です。

### HP Connect-Itのユーティリティ

Asset Manager Automated Process Managerが自動的に起動する一部のアクションでは、HP Connect-Itが必要になります。例えば、

- Asset Managerデータベースへの接続時にNTセキュリティを使用するために、データベースにNTユーザを追加する場合

 **警告:**

Asset Manager Automated Process Managerの**Windows**バージョンが必要です。

- データベースにNTドメインで宣言されたコンピュータを取得する場合

 **警告:**

Asset Manager Automated Process Managerの**Windows**バージョンが必要です。

- 例えば、棚卸データをHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryからインポートする場合

HP Connect-Itの動作環境、およびインストール方法についてはHP Connect-Itのドキュメントを参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerとHP Connect-Itの統合方法については、Asset Managerの『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」章の「**Asset Manager Automated Process Manager**でモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

## デモ用データベース

Asset Managerはデモ用データベースと共にインストールされます。

このデータベースには次の機能があります。

- HP AutoPassライセンスキーがインストールされた後、Asset Manager Application Designerによって有効化できます。これらのライセンスキーは、ソフトウェアの全部または一部へのアクセスを許可します。
  - ▶ 『管理』ガイドの「**ライセンスキーをインストールする**」の章を参照してください。
- Asset Manager Automated Process ManagerおよびAsset Manager Application Designerによるアクセスも可能です。

デモ用データベースは、「Asset Manager」インストールフォルダの「demo」サブフォルダにコピーされています。

該当ファイルは、「AMDemo93.mdf」です。

 **注意:**

インストール時に、ユーザが「itam」でパスワードが「password」であるインスタンスを使用して、デモ用データベースがMicrosoft SQL Serverに宣言されません。



## データベースへの接続

- 1 SQL Serverインスタンスがインストール済みで、対応するWindowsサービスが開始されていることを確認します。
- 2 Asset Managerを起動します。
- 3 **【データベースに接続】** ウィンドウが表示されます。  
このウィンドウへ次のように入力します。

フィールド	値
接続	AMDemo93ja
ログイン	Admin
パスワード	空



### 注意:

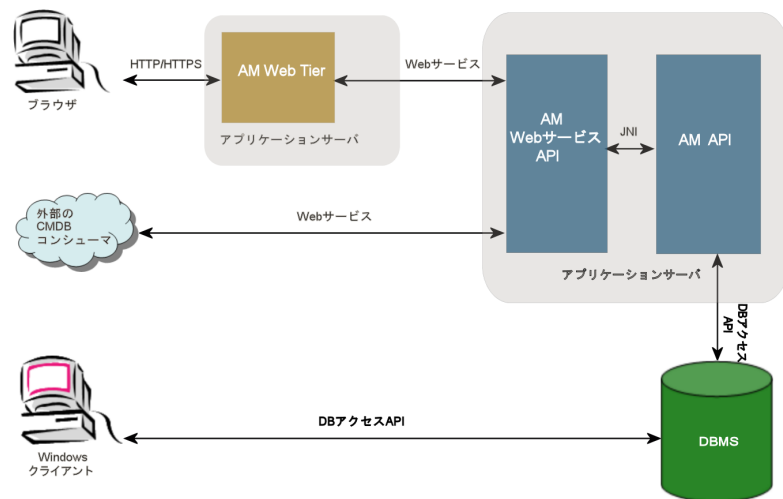
他のログインも使用できます。



## 6 Asset Manager Webのインストール、設定、削除、および更新

### Asset Manager Webアーキテクチャ

図 6.1. Asset Manager Webアーキテクチャ



- ユーザが、ブラウザ経由でAsset Manager Webクライアントにアクセスします。
- ブラウザとAsset Manager Web Tierは、HTTP/HTTPSプロトコルを使って通信します。
- Asset Manager Web Tierが、ブラウザから受け取った要求をAsset Manager Web Serviceに送ります。
- Asset Manager Web ServiceがAPIを使ってAsset Managerデータベースを参照または変更します。
- Asset Manager Web ServiceがデータをデータベースからAsset Manager Web Tierに送ります。
- 表示するページをAsset Manager Web Tierがブラウザに送ります。

 **ヒント:**

パフォーマンスとスケーラビリティを最適化するための導入時の推奨事項

- Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceは、別々のアプリケーションサーバでホストしてください。
- Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceのインスタンス数は、システムパフォーマンスを改善するために、Asset Manager Web Tierへの接続の増加に合わせて増やすことができます。

---

## Asset Manager Webのインストール

 **重要項目:**

Asset Manager Webのインストールは、Asset Manager Webの実行に使用するWebサーバとアプリケーションサーバを正しく設定できる技術を持つユーザが行ってください。

このガイドでは、本書の目的外となるこれらのアプリケーションサーバとWebサーバのインストール方法の説明は行いません。

アプリケーションサーバとWebサーバの使用方法については、使用するサーバに該当するガイドを参照してください。

## 実用例

### 警告:

このセクションでは、ローカルテストマシン上にインストールされている Asset Manager Webの例を示します。マシンの構成は次のとおりです。

- オペレーティングシステム : Windows Server 2003
- アプリケーションサーバ : Tomcat 5.5.27
- DBMS : SQL Server 2005
- データベース : Asset Managerと共にインストールされたデモ用データベース

この実用例は、Asset Manager Webのパフォーマンスの最適化を目的としたものではありません。

Tomcat 5.5.27とJ2SE v 5.0 JDKは、必ずしも現在使用できるか、または本番モードで使用およびサポートする必要があるソフトウェアアプリケーションに対応しているとは限りません。

サポートされているソフトウェアの詳細については、サポート表 ([www.hp.com/go/hpsupport](http://www.hp.com/go/hpsupport)) を参照してください。

本番環境におけるインストールの詳細 : ▶ この章の残りのセクション

- 1 Microsoft SQL Server 2005をテストコンピュータにインストールします。
- 2 Asset Managerを「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx」フォルダにインストールします。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字のアルファベット (2文字の言語コード) です。 (▶ 「Asset Managerインストール前の注意事項 [P. 37]」および「手動インストール (GUI) [P. 40]」)。  
セットアップタイプは [カスタム] モードを選択します。  
次のコンポーネントを選択します。
  - Asset Manager Automated Process Manager
  - Asset Manager Application Designer
  - データベース管理
  - Asset Manager API
  - デモ用データベース
  - WebサービスとWebクライアント
- 3 Oracle Webサイトから、J2SE v 5.0 JDK (JRE、オフラインインストールファイルを含むJDK 5.0 Update 17) を「C:\Program Files\Java\jdk1.5.0\_17」フォルダにインストールします。
- 4 J2SE v 5.0 JDKインストールフォルダがポイントされるよう、**JAVA\_HOME** システム変数を追加または変更します (Windowsでは、 [スタート/設定/コントロールパネル]。 [システム] をダブルクリックし、 [詳細設定] タブの [環境変数] ボタンをクリックして表示されるシステム環境変数 枠)。  
使用する値:

C:\Program Files\Java\jdk1.5.0\_17

- 5 デモ用データベースを使用するために、Asset Managerで取得したHP AutoPassライセンスキーをインストールして、Asset Manager Application Designerでデモ用データベースをアクティブにします。  
▶ Asset Manager 『管理』 ガイドの「ライセンスキーをインストールする」の章
- 6 Tomcat 5.5.27を「C:\Tomcat55」フォルダにインストールします。  
次を除き、インストールプログラムがデフォルトで指定したオプションを確定します。
  - インストールフォルダはC:\Tomcat55でなくてはなりません。
  - インストールが完了したら、Tomcatを起動させるオプションをオフにします。
- 7 Tomcat設定コンソールを起動します（Windowsでは、[スタート/プログラム/△/Apache Tomcat 5.5/Configure Tomcat] をクリックします）。
- 8 [Java] タブをクリックします。
- 9 次のフィールドに値を入力します。

フィールド	値
Java仮想マシン	C:\Program Files\Java\jre1.5.0_17\bin\client\jvm.dll
Java Classpath	C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_17\lib\tools.jar;C:\Tomcat55\bin\bootstrap.jar
Java Options	この行を追加します:  -Djava.library.path=C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。
Initial memory pool	512（またはお使いのコンピュータに適合する別の値）
Maximum memory pool	1024（またはお使いのコンピュータに適合する別の値）
スレッドスタックサイズ	1000（またはお使いのコンピュータに適合する別の値。コンピュータの合計RAMよりも最小250Mb小さくなくてはならない）

- 10 Tomcat設定コンソールを閉じます。
- 11 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 12 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 13 次のコマンドラインを（別々に）実行します。

deploy.bat ..\websvc\package.properties

deploy.bat ..\webtier\package.properties

- 14 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\websvc\AssetManagerWebService.war」および「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\webtier\AssetManager.war」をコピー

します。ここで、「**xx**」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。

それらを「C:\Tomcat55\webapps」フォルダに貼り付けます。

15 Tomcatを起動します。

- a Tomcat monitoring consoleを起動します（Windowsでは、[スタート／プログラム／Apache Tomcat 5.5／Monitor Tomcat] をクリックします）。
- b Windowsタスクバーの右下にある [Tomcat] アイコンを右クリックします。
- c [Start service] メニューを選択します。
- d 赤い四角マークが緑の右向き三角マークに変わるのを待ちます。

16 Internet Explorerを起動します。

17 以下のオプションを選択して、Internet Explorerを構成します。

- JavaScriptを実行する：（[ツール／インターネット オプション] メニューで、[セキュリティ] タブを選択して、[レベルのカスタマイズ] をクリックし、リストの [スクリプト] セクションまでスクロールし、[アクティブ スクリプト] オプションに対して [有効にする] を選択します）
- cookieを受け取る（[ツール／インターネット オプション] メニューで、[プライバシー] タブを選択して、[詳細設定] をクリックし、[自動 Cookie 処理を上書きする] を選択してから [受け入れる] を選択します）
- ポップアップウィンドウを表示する：（[ツール／ポップアップ ブロック] メニューで、この項目がオンになっている場合は、[ポップアップ ブロックを無効にする] メニューを選択します）

Internet Explorerを閉じて再起動します。

18 Asset Manager Web Serviceの導入が成功したことを確認するため、以下の手順でテストを行います。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

<http://localhost:8080/AssetManagerWebService>



**警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 4 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database Base: Name      AMDemo93en Engine      MSSQL User
sa Owner      itam AmApiDll  'C:\Program Files\HP\Asset Manage
r 9.30 en\bin\amapi93.dll' User: Admin Version: 9.30 - build xxxx D
ll path: C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 en\bin\amapi93.d
ll
```

#### ヒント:

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定を再定義してください。

Tomcat 5.0の例：[Initial memory pool] と [Maximum memory pool] の設定。

19 次のURLを表示します。

```
http://localhost:8080/AssetManager
```

#### 警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

これにより接続ページが表示されます。

20 次のフィールドに値を入力します。

フィールド	値
ログイン	Admin
パスワード	パスワードは空欄にしておきます。

## インストールの概要

Asset Manager Web TierおよびAsset Manager Web Serviceは、以下の同じ手順でインストールします。

- すべての準備タスクを済ませます。
  - ▶ Asset Manager Webのインストールの準備 [P. 65].
- Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを展開するためのアーカイブファイルを更新します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].
- アーカイブファイルをアプリケーションサーバに展開します。
  - ▶ アーカイブファイルをアプリケーションサーバに展開する [P. 81].
- 正しく展開できたことをテストします。
  - ▶ 展開が成功したかどうかテストする [P. 95].



### 注意:

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、次のようにインストールできます。

- 個別に（テストモード、または本番モード）：「▶ アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合 [P. 84]」および「WebLogicがアプリケーションサーバの場合 [P. 88]」
- 同時に（テストモードのみ）：「▶ Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時にインストールする [P. 91]」

## Asset Manager Webのインストールの準備

### インストールするコンポーネント

#### 重要項目:

次のコンポーネントのどのバージョンがサポートされているかは、サポート表 ([www.hp.com/go/hpssoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpssoftwaresupport)) を参照してください。

- アプリケーションサーバ
- Webサーバ

Asset Manager Webをインストールする前に、下のリストのコンポーネントをインストール、設定、および起動する必要があります。手順は各コンポーネントのエディタの指示に従ってください。

- データベースサーバ上にAsset Managerデータベース
- Asset Manager Automated Process ManagerがAsset Managerデータベースにアクセス可能な任意のサーバ上のAsset Manager Automated Process Manager

WindowsクライアントやWebクライアントがデータベースに接続するには、以下に挙げるアクションが必要です。

- Asset Manager Automated Process Managerが実行中で、データベースに接続している必要があります
- Asset Manager Automated Process Managerデータベースサーバに**送信**（UpdateToken）モジュールがアクティブであり、少なくとも1週間に1回実行されるようにスケジュールされている必要があります。
  - ▶ 『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する**」のセクション。
- 同じコンピュータに次のアプリケーションをインストールします。

 **注意:**

同じ一連のアプリケーションを複数のコンピュータに展開することが必要な場合もあります。それは、例えばAsset Manager Webのパフォーマンスを強化するためです。

■ アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバはネットワークインフラストラクチャ（ファイアウォールやプロキシなど）により保護される必要がありますが、インターネットブラウザからの接続は許可する必要があります。

Asset Manager Webのパフォーマンスを最大限に引き出すためには、アプリケーションサーバを正しく設定する必要があります。

▶ アプリケーションサーバを設定するためのヒントと例については、「アプリケーションサーバの設定 - 特別な場合と例 [P. 68]」を参照してください。

設定情報の詳細については、アプリケーションサーバに付属するドキュメントを参照してください。

■ Java Development Kit (JDK)

 **注意:**

Oracle JDKの最新バージョンを利用してパフォーマンスと安定性を向上させるため、TomcatアプリケーションサーバではOracle Java SE 6 Update 23 JDK以上を使用することを強くお勧めします。

アプリケーションサーバが適切に動作するように、使用するアプリケーションサーバと互換性のあるJDKバージョンが、アプリケーションサーバと共にインストールされていることを確認してください。

サポート表 ([www.hp.com/go/hpsoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport)) を参照してください。

JDKインストールフォルダを指すように**JAVA\_HOME**システム変数を追加または変更する必要があります。

 **注意:**

WebLogicの場合は、WebLogicインストールパッケージに付属するOracle JRockitまたはSun JDKを使用する必要があります。

Oracleは、開発モードのWebLogicドメインではSun JDK、本番モードのWebLogicドメインではJRockitの使用を推奨しています。詳細については、WebLogicサーバの説明書を参照してください。

■ データベースアクセスAPI（使用するDBMSによって異なり、例えばSQL Serverの場合はODBC）

アプリケーションサーバをホストするコンピュータは、Asset Manager データベースにアクセスできなければなりません。

そのためには、Asset Managerデータベースで使用するDBMS用のデータベースアクセスAPIがそのコンピュータにインストールされている必要があります。

- Asset Managerインストールプログラムでインストールできる Asset Managerコンポーネント：
  - WebサービスとWebクライアント
  - Asset Manager API
  - LDAP認証（この機能を実装する場合）

---

#### 重要項目:

Webクライアントの表示に使用する言語バージョンのAsset Managerをインストールします。

マルチリンガル設定が可能なAsset Managerデータベースに、この言語が含まれている必要があります。

複数の言語バージョンのWebクライアントをインストールした場合は、同じ数のAsset Manager Webインスタンスをインストールする必要があります（Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tier）。

使用する言語が同じデータベースに含まれる場合は、これらのインスタンスはすべてそのデータベースを指定することができます。

言語によって異なるURLによって、Webクライアントで使用する表示言語を選択することができます。

▶ 『管理』ガイドの「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章、「Asset Managerクライアント言語を変更する」のセクション

---

#### 注意:

必要なライブラリをAsset Manager Webが探すことができるように、以下のシステムライブラリ検索パスに<Asset Managerインストールフォルダ>\bin（32ビット）または<Asset Managerインストールフォルダ>\x64（64ビット）が含まれていることを確認してください。

- Windowsの場合：環境変数Path
- SolarisまたはLinuxの場合：環境変数LD\_LIBRARY\_PATH
- Linuxの場合：「ld.so」の設定ファイルも参照
- AIXの場合：環境変数LIBPATH

binとx64の両方がパスに記述されている場合は、必要なほうが先に記述されていることを確認してください。

---



### 注意:

UNIXサーバ上にAsset Manager Web Serviceをインストールしている場合、「.so」ファイルに注意して「`???` [P. ?]」および「`???` [P. ?]」セクションの指示に従っていることを確認してください。

## アプリケーションサーバの設定 - 特別な場合と例

このセクションは、アプリケーションの設定方法を詳細に説明することを意図したものではありません。詳細な設定手順と推奨事項については、アプリケーションサーバのドキュメントを参照してください。

ここでは、ある特定のハードウェアやソフトウェア構成での、アプリケーションサーバの追加設定について説明します。これらの設定を、アプリケーションサーバに通常必要な設定と共に実行する必要があります。

また、ここでは特定のハードウェアおよびソフトウェア構成での設定例も示します。この例を参照し、ご使用の環境に合うように変更してください。

### JVMの設定

- Asset Manager Web TierをUNIXサーバ上にインストールする場合、Java仮想マシン (JVM) がUNIXのグラフィック資源を使用しないように構成する必要があります。

それには、アプリケーションサーバのJVM設定に次のパラメータを追加します。

```
-Djava.awt.headless=true
```

- Asset Manager Web Tierで使用するJVM設定の例：

Asset Manager Web用に確保された8 GbのRAMで32ビットOSに  
Asset Manager Webを展開する場合：

```
-Xms1500m -Xmx1500M -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:+UseTLAB -XX:SurvivorRatio=2 -XX:+UseBiasedLocking -XX:NewSize=256m -XX:MaxNewSize=256m -server
```

Asset Manager Web用に確保された24 GbのRAMで64ビットOSに  
Asset Manager Webを展開する場合：

```
-Xmx4000m -Xms4000m -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:+UseTLAB -XX:SurvivorRatio=8 -XX:NewSize=512m -XX:MaxNewSize=512m -XX:+UseBiasedLocking -Dsun.lang.ClassLoader.allowArraySyntax=true -server
```

- Asset Manager Web Serviceで使用するJVM設定の例：



### 注意:

Asset Manager Web Serviceプロセスで使用されるメモリは、JVM **-Xmx**パラメータ+Asset Manager APIで使用されるRAMと、DBMSアクセスAPIなどのサードパーティツールの合計です。

32ビットOSの場合、Asset Manager Web Serviceプロセスで使用されるメモリは2 Gbを超えることができません。

64ビットOSの場合、Asset Manager Web Serviceで使用されるメモリは、そのサーバの物理RAMの容量によってのみ制限されます。

Asset Manager Web用に確保された8 GbのRAMで32ビットOSにAsset Manager Webを展開する場合：

```
-Xmx600M -Xms600M -XX:+UseTLAB -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:SurvivorRatio=2 -XX:NewSize=128m -XX:MaxNewSize=128m -XX:+UseBiasedLocking -XX:CMSIncrementalDutyCycleMin=0 -XX:CMSIncrementalDutyCycle=10 -XX:CMSInitiatingOccupancyFraction=70 -XX:+UseCMSCompactAtFullCollection -server
```

Asset Manager Web用に確保された24 GbのRAMで64ビットOSにAsset Manager Webを展開する場合：

```
-Xmx2000M -Xms2000M -XX:+UseTLAB -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:SurvivorRatio=2 -XX:NewSize=256m -XX:MaxNewSize=256m -XX:+UseBiasedLocking -server
```

### Tomcat特有の設定

- Asset ManagerをTomcat on Java 6と共に実行する場合は、TomcatのJVM設定に次の行を追加する必要があります。

```
-Dsun.lang.ClassLoader.allowArraySyntax=true
```

- 使用するTomcatのバージョンが、HPがHP UXで提供するバージョンである場合は、setclasspath.sh (<Tomcatインストールフォルダ>/bin/内) で定義された**JAVA\_ENDORSED\_DIRS**変数の値を変更する必要があります。

置換前：

```
JAVA_ENDORSED_DIRS="$BASEDIR"/common/endorsed
```

置換後：

```
if [ -z "$JAVA_ENDORSED_DIRS" ]; then JAVA_ENDORSED_DIRS="$BASEDIR"/common/endorsed fi
```

java 1.5を使用する場合、**JAVA\_ENDORSED\_DIRS**の値を<Tomcatインストールフォルダ>/common/endorsedと異なるフォルダにセットする必要もあ

ります。<Tomcatインストールフォルダ>/common/endorsed\_java5などの専用ディレクトリを作成および使用できます。

- 設定例

以下は、3GHzのIntel Quadcoreプロセッサ2個、8GBのRAMを搭載し、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを別々のTomcatインスタンスで実行しているコンピュータ上で、Windows Server 2003を使用してテストした際のTomcatの設定例です。

- Asset Manager Web Tier使用のTomcat設定を以下に挙げます。

Asset Manager Webを32ビットOSに展開する場合：

```
<Connector acceptCount="575" connectionTimeout="900000" disableUploadTimeout="true" port="8080" redirectPort="8443" maxThreads="550" minSpareThreads="200" maxSpareThreads="200" maxKeepAliveRequests="1000" keepAliveTimeout="180000" />
```

Asset Manager Webを64ビットOSに展開する場合：

```
<Connector port="8081" maxHttpHeaderSize="8192" maxThreads="300" minSpareThreads="25" maxSpareThreads="300" enableLookups="false" redirectPort="8443" acceptCount="700" connectionTimeout="60000" disableUploadTimeout="true" maxKeepAliveRequests="1000" keepAliveTimeout="3000" compressionMinSize="2048" noCompressionUserAgents="gozilla, traviata" compressableMimeType="text/html,text/xml"/>
```

- Asset Manager Web Service使用のTomcat設定を以下に挙げます。

Asset Manager Webを32ビットOSに展開する場合：

```
<Connector port="8081" maxThreads="250" minSpareThreads="49" maxSpareThreads="100" enableLookups="false" redirectPort="8443" acceptCount="745" debug="0" connectionTimeout="1000" disableUploadTimeout="true" maxKeepAliveRequests="15" keepAliveTimeout="100" />
```

Asset Manager Webを64ビットOSに展開する場合：

```
<Connector port="8080" maxHttpHeaderSize="8192" maxThreads="900" minSpareThreads="100" maxSpareThreads="300" enableLookups="false" redirectPort="8443" acceptCount="1200" connectionTimeout="60000" disableUploadTimeout="true" maxKeepAliveRequests="1000" keepAliveTimeout="5000" compression="on" compressionMinSize="2048" noCompressionUserAgents="gozilla, traviata" compressableMimeType="text/html,text/xml,text/css,text/javascript"/>
```

## 取得するライセンス

Asset Manager Web経由（Asset Manager Web Tier + Asset Manager Web Service経由）でAsset Managerデータベースにアクセスする場合、特別なライセンスは必要はありません。

Asset Manager Webは、Windowsクライアントと同じ方法で処理されます。

Asset Managerデータベースへの接続に使用される固定アクセス、一時アクセス、または不特定アクセスの数は、Windowsクライアント、またはAsset Manager Web Tierのいずれを介しているかにかかわらず、Asset Managerライセンスにより設定されます。

ただし、Asset Manager WindowsクライアントおよびAsset Manager Web以外の方法でAsset Managerデータベースにアクセスする場合に、その方法でAsset Manager Web Serviceを使用するのであれば、特定のAsset Manager Web Serviceライセンスを取得する必要があります。

## 必要な暗号化パスワードを入手する

インストールの際に、「package.properties」ファイルに、特定のパスワードを入力する必要があります。

- Asset Managerデータベースに接続するユーザに関連付けられたパスワード
- Asset ManagerデータベースのMSSQLユーザ、DB2ユーザ、またはOracleアカウントと関連付けたパスワード

「package.properties」ファイルのパスワード（以下参照）を暗号化された形式にする場合は、これらのパスワードの暗号化されたバージョンを生成する必要があります。

- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\websvc\password」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Manager言語を表す2文字の言語コードです。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
<J2SE SDKインストールフォルダ>\bin\java.exe -jar am-pwd-crypt-93.jar  
<暗号化されていないパスワード>
```

- 4 暗号化したパスワードの値を書き留めておきます。

## Webサービスのタグ付け

Asset Manager Webが正常に展開されたことを確認するには、Asset Manager Web Serviceを展開する前にWebサービスにタグ付けします。

- ▶ 『Tailoring』ガイドの「Customizing the database」の章、「Development best practices/Tag the Web services」のセクション。

## Webサービスに関連付けられた機能ドメインの一貫性の確認

機能ドメインのデータを変更した場合は、Webサービスに影響がないことを確認します。

- ▶ 『Tailoring』ガイドの「Customizing the database」の章、「Development best practices/Verify the functional domains associated with the Web services」のセクション。

影響がある場合は、[No such operation 'XXX' (そのような操作はありません 'XXX')] のようなエラーメッセージが表示されます。

影響がある場合は、Webサービスに再度タグ付けする必要があります。

- ▶ 『Tailoring』ガイドの「Customizing the database」の章、「Development best practices/Tag the Web services」のセクション。

## アーカイブファイルを更新する

Asset Manager Webアプリケーションは、アーカイブファイル（「.war」または「.ear」ファイル）として配布されます。これらは、標準フォーマットに準拠しており、アプリケーションサーバおよびAsset Manager Web用の設定データで構成される「web.xml」ファイルが含まれます。

ベストプラクティス： Asset Manager Web web.xmlは、決して直接編集しないでください。代わりに、Asset Manager Webの設定可能パラメータは必ず「package.properties」ファイル経由で編集し、その後、展開スクリプト（「deploy.bat」または「deploy.sh」）を使用して、アーカイブファイルに含まれる「web.xml」を編集済みのカスタム構成で更新してください。

### 「package.properties」ファイルを編集する



**注意:**

プロパティファイルを編集する前に、以下の手順を必ず実行してください。

- ファイルのバックアップコピーをまず作成します。
- アプリケーションサーバが起動している場合は停止します。

編集が必要な「package.properties」ファイルは、インストールするアプリケーションによって異なります。

表 6.1. 編集する「package.properties」ファイルの選択

インストールするWebアプリケーション	このディレクトリの「package.properties」ファイルを編集
Asset Manager Web Service	<Asset Managerインストールフォルダ >\websvc\package.properties
Asset Manager Web Tier	<Asset Managerインストールフォルダ >\webtier\package.properties



インストールするWebアプリケーション	このディレクトリの「package.properties」ファイルを編集
Asset Manager Web TierおよびAsset Manager Web Service (同時にインストール)	<Asset Managerインストールフォルダ>\websvc\package.properties <Asset Managerインストールフォルダ>\webtier\package.properties

以下のセクションでは、「package.properties」ファイルに含まれるパラメータについて説明します。

### Asset Manager Web Service用の「package.properties」パラメータ

ファイルパス：

「<Asset Managerインストールフォルダ>\websvc\package.properties」  
必須のパラメータまたは一般的に変更されることの多いパラメータ

パラメータ	詳細	値
DB.engine	Asset Managerのこのインストールで使用されるデータベースエンジン	例： MSSQL
DB.datasource	データベースの名前	例： AMDemo93ja
DB.login	データベースエンジンのログインID	例： sa
DB.cache.enabled	データベースキャッシュが有効かどうか	例： true
DB.cache.dir	キャッシュディレクトリ	例： /tmp
DB.cache.size	キャッシュサイズ (KB単位、1048576 = 1GB)	例： 1048576
DB.owner	データベースの所有者	例： itam

パラメータ	詳細	値
DB.library.path	<p>aamapi93ライブラリへのパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 32ビットOSに展開する場合、「&lt;Asset Managerインストールフォルダ&gt;\bin」に格納されたaamapi93ライブラリを使用する必要があります。</li> <li>■ 64ビットOSに展開する場合、「&lt;Asset Managerインストールフォルダ&gt;\x64」に格納されたaamapi93ライブラリを使用する必要があります。</li> </ul>	<p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windowsの場合：「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin\aamapi93.dll」</li> <li>■ Unixの場合：「/opt/lib/aamapi93.so」</li> </ul>
AssetManager.UserLogin	WebServiceで使用するAsset Managerユーザーログイン	例：
war	このパラメータにより、「<Asset Managerインストールフォルダ>\websvc」フォルダにあるものとは別の「.war」ファイルを、変換される「.war」のベースとして使用できるようにになります。	<p>Demo</p> <p>例：</p> <p>Asset Manager Web Service : 「./websvc/AssetManagerWebService.war」</p> <p>Asset Manager Web Tier : 「./webtier/AssetManager.war」</p>
war.deployment	<p>「.war」ファイルを展開するかどうか。</p> <p>warを展開すると、<b>war</b>パラメータで指定されたwarが変更されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アプリケーションサーバがTomcatの場合は、このパラメータの値を<b>true</b>に設定します。</li> <li>■ アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicの場合は、このパラメータの値を<b>false</b>に設定します。</li> </ul>
ear.deployment	<p>「.ear」ファイルを展開するかどうか。</p> <p>earを展開すると、warファイルのコピーが作成されます。そのコピーを変更して、<b>ear</b>パラメータで指定された「.ear」ファイルに含めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicの場合は、このパラメータの値を<b>true</b>に設定します。</li> <li>■ アプリケーションサーバがTomcatの場合は、このパラメータの値を<b>false</b>に設定します。</li> </ul>

パラメータ	詳細	値
ear	<p><b>注意:</b></p> <p>このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。</p> <p>earの展開時に展開スクリプトによって作成される「.ear」の絶対パスまたは相対パス</p>	「../weblogic/AssetManager-webservice.ear」

オプションのパラメータまたは編集することの少ないパラメータ：

パラメータ	説明	値
DB.password	<p>MSSQL、DB2、またはOracleデータベースのパスワード。</p> <p>これを「package.properties」ファイルに入力した場合、展開スクリプトの実行時には入力の必要がありません。</p>	<p>このパラメータの値は、<b>encrypt</b>パラメータに指定された値に応じて変化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>encrypt=false</b>（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。</li> <li>■ <b>encrypt=true</b>（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。</li> </ul> <p>展開スクリプトによって、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。</p>
AssetManager.UserPwd	<p>Asset Managerデータベースのユーザログインのパスワード</p> <p>これを「package.properties」ファイルに入力した場合、展開スクリプトの実行時には入力の必要がありません。</p>	<p>このパラメータの値は、<b>encrypt</b>パラメータに指定された値に応じて変化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>encrypt=false</b>（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。</li> <li>■ <b>encrypt=true</b>（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。</li> </ul> <p>展開スクリプトによって、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。</p>

パラメータ	説明	値
promptForPwd	<p>このパラメータが<b>true</b>に設定されている場合は、展開スクリプトの実行時に必要なすべてのパスワードの入力がユーザに求められます。</p> <p>その場合は、パスワードを「<b>package.properties</b>」ファイルに格納する必要はありません。</p>	<p>例：</p> <p><b>true</b></p>
encrypt	<p>このパラメータが<b>true</b>に設定されている場合、ユーザは暗号化されていない形式でパスワードを入力する必要があります。</p> <p>この設定は、</p> <p>「<b>package.properties</b>」ファイルに入力するパスワード、または展開スクリプトで求められたときに入力するパスワードのいずれかに適用されます（どちらに適用されるかは、<b>promptForPwd</b>の値によって決まります）。</p>	<p>例：</p> <p><b>true</b></p>
ant.tasks.dir	<p>展開スクリプトで要求される「<b>.jar</b>」ファイルの場所</p> <p>スクリプトで使用するのは、デフォルトでは「&lt;Asset Manager インストールフォルダ&gt;\deploy\lib」ディレクトリにあるファイルです。</p>	<p>例：</p> <p><b>lib</b></p>
combination.ear	<p><b>注意:</b></p> <p>このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。</p> <p>作成される「.ear」ファイルにWebTierとWebServiceの両方を含める (<b>true</b>) か含めないか (<b>false</b>)</p>	<p>例：</p> <p><b>true</b></p>

パラメータ	説明	値
manifest.classpath	<p><b>注意:</b></p> <p>このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。</p> <p><b>Java classpath</b>への追加のファイル参照。(これらのファイルは、<b>addl.files</b>パラメータで、「.ear」ファイルに追加する必要があります)</p>	<p>「/am-jni-93.jar /am-constants-93.jar」</p> <p><b>注意:</b></p> <p>Asset Manager Webを正しく動作させるには、これらのデフォルトのファイル参照を保持する必要があります。</p>
addl.files.root	<p><b>注意:</b></p> <p>このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。</p> <p><b>addl.files</b>によって参照されるすべてのファイルがあるベースディレクトリ</p>	<p>例:</p> <p>..</p>
addl.files	<p><b>注意:</b></p> <p>このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。</p> <p>Asset Manager Webの変更済みの「.war」に加えて、「.ear」ファイルに追加するファイルのリスト (<b>war</b>パラメータ参照)</p>	

他のAsset Manager Web Serviceパラメータの詳細 : ▶ 『**Tailoring**』ガイドの「**Customizing Web clients**」の章、「**Modifying the Web client's default behavior**」のセクション

### Asset Manager Web Tier用の「package.properties」パラメータ

ファイルパス :

「<Asset Managerインストールフォルダ>\webtier\package.properties」  
 必須のパラメータまたは一般的に編集されることの多いパラメータ

パラメータ	説明	値
WebService.EndPoint.SOAP	SOAP Asset Manager Web ServiceのURL	<p>例:</p> <p>http://localhost:8080/AssetManagerWebService/services</p>

パラメータ	説明	値
WebService.EndPoint.REST	REST Asset Manager Web ServiceのURL	例：  http://localhost:8080/AssetManagerWebService/rest
WebService.Version	使用するAsset Manager Web Serviceタグ	例：  Head
war.deployment	「.war」ファイルを展開するかどうか。  warを展開すると、 <b>war</b> パラメータで指定されたwarが変更されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アプリケーションサーバがTomcatの場合は、このパラメータの値を<b>true</b>に設定します。</li> <li>■ アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicの場合は、このパラメータの値を<b>false</b>に設定します。</li> </ul>
ear.deployment	「.ear」ファイルを展開するかどうか。  earを展開すると、warファイルのコピーが作成されます。そのコピーを変更して、 <b>ear</b> パラメータで指定された「.ear」ファイルに含めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicの場合は、このパラメータの値を<b>true</b>に設定します。</li> <li>■ アプリケーションサーバがTomcatの場合は、このパラメータの値を<b>false</b>に設定します。</li> </ul>
ear	<b>注意:</b>  このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。  earの展開時に展開スクリプトによって作成される「.ear」の絶対パスまたは相対パス	../weblogic/AssetManager-webservice.ear
combination.ear	<b>注意:</b>  このパラメータは、アプリケーションサーバがWebSphereまたはWebLogicのときの展開にのみ関係します。  作成される「.ear」ファイルにWebTierとWebServiceの両方を含める (true) か含めないか (false)	例：  true

編集することの少ないパラメータ：

パラメータ	説明	値
war	このパラメータにより、「<Asset Managerインストールフォルダ>\websvc」フォルダにあるものとは別の「.war」ファイルを、変換される「.war」のベースとして使用できるようにします。	例： ../websvc/AssetManager.war
ant.tasks.dir	展開スクリプトで要求される「.jar」ファイルの場所 スクリプトで使用するのは、デフォルトでは「<Asset Managerインストールフォルダ>\deploy\lib」ディレクトリにあるファイルです。	例： lib

## 展開スクリプトを使用してアーカイブファイルを更新する

展開スクリプトのパスとファイル名は次のとおりです。

Windows	<Asset Managerインストールフォルダ>\deploy\deploy.bat 例： C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\deploy\deploy.bat
Unix	<Asset Managerインストールフォルダ>/deploy/deploy.sh 例： /home/<user>/AssetManager/deploy/deploy.sh

## Windowsの場合

アーカイブファイルを更新するには：

- 展開スクリプトを実行する前に、展開しようとするWebアプリケーションの「package.properties」のパラメータ値が正しいことを確認します。パラメータの説明を参照してください。
  - Asset Manager Web Serviceを展開する場合：▶ [Asset Manager Web Service用の「package.properties」パラメータ \[P. 73\]](#)
  - Asset Manager Web Tierを展開する場合：▶ [Asset Manager Web Tier用の「package.properties」パラメータ \[P. 77\]](#)
- 必要に応じて、『**Tailoring**』ガイドの「**Customizing Web clients**」の章、「**Modifying the Web client's default behavior**」のセクションに記載されているようにAsset Manager Web Serviceパラメータのいずれかを変更します。
- DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\deploy」フォルダに移動します。

5

 **警告:**

「deploy」ディレクトリの「.war」ファイルは変更されるので、事前にバックアップする必要があります。

次のコマンドラインを実行します。

```
deploy.bat [/64] [/ws7] <「package.properties」への相対パス>
```

**/64**または**/x64** : 64ビットバージョンのWindowsにAsset Manager Web Serviceを展開する場合は、このパラメータを使用します。

**/ws7** : WebSphere Application Serverのバージョン7を展開する場合は、このパラメータを使用します (WebSphere Application Serverの以前のバージョンの場合はパラメータ不要)。

例 :

```
deploy.bat /64 C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\websvc\package.properties
```

### Unixの場合

- 展開スクリプトを実行する前に、展開しようとするWebアプリケーションの「package.properties」のパラメータ値が正しいことを確認します。パラメータの説明を参照してください。
  - Asset Manager Web Serviceを展開する場合 : ▶ [Asset Manager Web Service用の「package.properties」パラメータ \[P. 73\]](#)
  - Asset Manager Web Tierを展開する場合 : ▶ [Asset Manager Web Tier用の「package.properties」パラメータ \[P. 77\]](#)
- 必要に応じて、『**Tailoring**』ガイドの「**Customizing Web clients**」の章、「**Modifying the Web client's default behavior**」のセクションに記載されているようにAsset Manager Web Serviceパラメータのいずれかを変更します。
- 次の環境変数が設定されていることを確認します。

変数	値
JAVA_HOME (Tomcatを使用している場合)	JDKインストールディレクトリへのパス。
TMPDIR	コンパイル時に使用する一時ディレクトリへのパス。 「deploy.sh」は、デフォルトでは「/tmp」ディレクトリを使用します。

- 4 コマンドシェルを開きます。





注意:

「deploy.sh」スクリプトは、HP-UXおよびAIXプラットフォームのBashコマンドシェルで実行する必要があります。

5 「<Asset Managerインストールフォルダ>/deploy」フォルダに移動します。

6



警告:

「deploy」ディレクトリの「.war」ファイルは変更されるので、事前にバックアップする必要があります。

次のコマンドラインを実行します。

```
deploy.sh [/ws7] <「package.properties」への相対パス>
```

**/ws7** : WebSphere Application Serverのバージョン7を展開する場合は、このパラメータを使用します (WebSphere Application Serverの以前のバージョンの場合はパラメータ不要)。

例 :

```
deploy.sh /ws7 ../websvc/package.properties
```



注意:

このコマンドをUnixシステムで実行すると、次のような警告メッセージが表示されることがあります。

```
expr: warning: unportable BRE: `^\\(-D\\)..*=.*!': using `^' as the first character of the basic regular expression is not portable; it is being ignored
expr: warning: unportable BRE: `^\\(-\\)..*=.*!': using `^' as the first character of the basic regular expression is not portable; it is being ignored
```

この警告は無視できます。

## アーカイブファイルをアプリケーションサーバに展開する



注意:

パフォーマンス上の理由で、本番モードのAsset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、2つ別々のアプリケーションサーバにインストールする必要があります。

これらのインスタンスは、同じコンピュータ上に配置できます。

例えば、Tomcatを使用している場合、Tomcatは2つ別々のフォルダにインストールする必要があります。1つはAsset Manager Web Service用、もう1つはAsset Manager Web Tier用です。

## Tomcatがアプリケーションサーバの場合

以下の手順を実行して、アーカイブファイル（「.war」ファイル）をTomcatアプリケーションサーバに展開します。

### Asset Manager Web Serviceのインストール

- 1 展開するアーカイブファイル（「AssetManagerWebService.war」）が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].
- 2 「<Asset Managerインストールフォルダ>\websvc\AssetManagerWebService.war」をTomcatインストールフォルダの「webapps」サブフォルダにコピーします。

#### 注意:

以前に「.war」ファイルが展開済みの場合は、既存の「.war」ファイルおよび同じ名前のサブフォルダを削除してから、「.war」ファイルを「webapps」フォルダにコピーする必要があります。

- 3 TomcatのJavaプロパティを入力します。

プロパティ	値
Java Classpath	J2SE SDKの「tools.jar」への完全パスを追加します（デフォルトの格納場所は、J2SE SDKインストールフォルダの「lib」サブフォルダです）。 パスは同一行に書き、セミコロン「;」で区切ります。

プロパティ	値
Java Options	<p>「amjni93.dll」ファイルが入っているフォルダへの完全パスを追加します  (デフォルトの場所は、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30  xx\bin」フォルダ (32ビット) または「C:\Program Files\HP\Asset  Manager 9.30 xx\x64」フォルダ (64ビット) で、「xx」は、ご使用の  Asset Managerの言語を表す2文字の言語コードです)。  パラメータの例 :</p> <p>-Djava.library.path=C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin</p> <p><b>注意:</b></p> <p>64ビットOSの場合に、Asset Managerインストールフォルダのx64サブフォルダおよびbinサブフォルダへのパスが両方とも-Djava.library.pathに含まれるときは、x64へのパスがbinへのパスより先に記述されていることを確認してください。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>Asset ManagerをTomcat on Java 6と共に実行する場合は、次の行を追加する必要があります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> -Dsun.lang.ClassLoader.allowArraySyntax=true </div>

- 4 Tomcatを起動します。
- 5 セクション「Asset Manager Web Serviceが正しく展開されたかどうかテストする [P. 95]」に進みます。

#### Asset Manager Web Tierのインストール

- 1 展開するアーカイブファイル（「AssetManager.war」）が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].

2

 **注意:**

Asset Manager Web Tierを**Tomcat 6.0.x**に展開する場合は、「AssetManager.war」から次のファイルを削除してから、warファイルを展開する必要があります。削除しなかった場合は、Asset Manager Webが正しくロードされないことがあります。

AssetManager.war\webapps\AssetManager\WEB-INF\lib\el-api.jar

手順：

- 1 このファイルを「<Asset Managerインストールフォルダ>\webtier」から探して、一時ディレクトリにunzipします。
- 2 「\webapps\AssetManager\WEB-INF\lib\」にある「el-api.jar」を探して削除します。
- 3 他のすべてのファイルを、展開に使用する新しい「AssetManager.war」に再びzipします。
- 4 新しい「AssetManager.war」を「<Asset Managerインストールフォルダ>\webtier」にコピーします。

「<Asset Managerインストールフォルダ>\webtier\AssetManager.war」をTomcatインストールフォルダの「webapps」サブフォルダにコピーします。

 **注意:**

以前に「.war」ファイルが展開済みの場合は、既存の「.war」ファイルおよび同じ名前のサブフォルダを削除してから、「.war」ファイルを「webapps」フォルダにコピーする必要があります。

- 3 TomcatのJavaプロパティを入力します。

プロパティ	値
Java Classpath	J2SE SDKの「tools.jar」への完全パスを追加します（デフォルトの格納場所は、J2SE SDKインストールフォルダの「lib」サブフォルダです）。 パスは同一行に書き、セミコロン「;」で区切ります。

- 4 Tomcatを起動します。
- 5 セクション「Asset Manager Web Tierが正しく展開されたかどうかテストする [P. 96]」に進みます。

## アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合

 **注意:**

以下の展開手順は、WebSphere Application Server 7.0のインターフェースに基づいています。WebSphere Application Server 6.xでの手順はわずかに異なる場合があります。

## Asset Manager Web Serviceのインストール

ここでは、Asset Manager Web ServiceをAsset Manager Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ [Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時にインストールする \[P. 91\]](#)

- 1 展開するアーカイブファイル（「AssetManager-webservice.ear」）が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。

▶ [アーカイブファイルを更新する \[P. 72\]](#).

### 注意:

更新されたアーカイブファイルは、デフォルトでは「<Asset Managerインストールフォルダ>\weblogic」フォルダにあります。

- 2 WebSphere Application Serverを起動します。
- 3 WebSphere Application Serverの管理コンソールを開きます。
- 4 ナビゲーションバーで、**[Environment / Shared Libraries]** をクリックします。
- 5 **[New]** ボタンをクリックします。
- 6 次のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
Name	<b>am-native-lib</b>
Description	<b>Asset Manager ネイティブライブラリ</b>
Classpath	.
Native Library Path	Asset Managerのバイナリディレクトリへのパス。例： <ul style="list-style-type: none"><li>■ Asset Manager Webを32ビットOSに展開する場合、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerインストールの2文字言語コードを表します。</li><li>■ Asset Manager Webを64ビットOSに展開する場合、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\x64」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerインストールの2文字言語コードを表します。</li></ul>

- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **[Messages]** 枠で **[Save]** リンクをクリックします。
- 9 ナビゲーションバーで、**[Applications / New Application]** を選択します。
- 10 **[New Application]** ページで、**[New Enterprise Application]** をクリックします。

11 次のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
Local file system/ Full path	「AssetManager-webservice.ear」ファイルへのパスです。

- 12 **[Next]** ボタンをクリックします。
- 13 **[Detailed: Show all installation options and parameters]** オプションを選択し、**[Next]** ボタンをクリックします。  
Webアプリケーションをインストールするために実行する一連のステップが表示されます。
- 14 手順4（共有ライブラリのマップ）：テーブルから、**[AssetManagerWebService]**（URI：META-INF/application.xml）を選択します。
- 15 **[Reference shared libraries]** ボタンをクリックします。
- 16 新規ライブラリ：**[am-native-lib]** を選択します。
- 17 インストールウィザードの残りのステップを完了します。
- 18 **[Finish]** ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 19 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAssetManagerWebServiceインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 20 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 21 ナビゲーションバーで、**[Servers/Server Types/WebSphere application servers]** を選択します。
- 22 右側の枠にあるサーバをクリックします。
- 23 **[Applications]** セクションの **[Installed applications]** をクリックします。
- 24 アプリケーションの一覧から、**[AssetManagerWebService]** をクリックします。
- 25 **[Detail Properties]** で **[Application binaries]** をクリックします。
- 26 **[Location (full path)]** フィールドの値をメモします。  
この値には、\$(APP\_INSTALL\_ROOT)/<セルの名前>というフォーマットが使用されます。  
この値は、あとで **[JVM Classpath]** フィールドに入力する際に必要になります。
- 27 ナビゲーションバーで、**[Servers/Server Types/WebSphere application servers]** を選択します。
- 28 右側のパネルにあるサーバをクリックします。
- 29 中央のページで、**[Server Infrastructure]** セクションの **[Java and Process Management]** の下にある **[Process definition]** オプションをクリックします。

- 30 次のページで、**[Additional Properties]** セクションの **[Java Virtual Machine]** をクリックします。
- 31 次のページで、以下の要領で **[Classpath]** フィールドに入力します。

値	<pre>-Djava.library.path=\$(APP_INSTALL_ROOT)/&lt;セルの名前&gt;/AssetManager-webservice.ear</pre> <p><b>注意:</b> \$(APP_INSTALL_ROOT)/&lt;セルの名前&gt;は、前のステップでメモした <b>[Application binaries]</b> フィールドの値です。</p>
例	<pre>-Djava.library.path=\$(APP_INSTALL_ROOT)/PC1Node01Cell/AssetManager-webservice.ear</pre>

- 32 変更の保存：
  - 1 **[Apply]** をクリックします。  
これによりページが再読み込みされます。
  - 2 ページ上部の **[Messages]** 枠にある **[Save]** をクリックします。
- 33 WebSphere Application Serverを停止します。
- 34 WebSphere Application Serverを起動します。
- 35 セクション「**Asset Manager Web Service**が正しく展開されたかどうかテストする [P. 95]」に進みます。

### Asset Manager Web Tierのインストール

ここでは、Asset Manager Web ServiceをAsset Manager Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ **Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時にインストールする [P. 91]**

- 1 展開するアーカイブファイル（「AssetManager.ear」）が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].

#### **注意:**

更新されたアーカイブファイルは、デフォルトでは「<Asset Managerインストールフォルダ>\weblogic」フォルダにあります。

- 2 WebSphere Application Serverを起動します。
- 3 WebSphere Application Serverの管理コンソールを開きます。
- 4 ナビゲーションバーで、**[Applications/New Application]** を選択します。

- 5 **[New Application]** ページで、**[New Enterprise Application]** をクリックします。
- 6 次のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
Local file system/ Full path	「AssetManager.ear」ファイルへのパス。

- 7 インストール画面に移動します。
- 8 **[Finish]** ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 9 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAssetManagerインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 10 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 11 ナビゲーションバーで、**[Applications / Application Types / WebSphere enterprise applications]** を選択します。
- 12 **[Asset Manager]** をクリックします。
- 13 **[Detail Properties]** セクションの **[Class loading and update detection]** をクリックします。
- 14 **[General Properties]** セクションで次のオプションを選択します。
  - **[Override class reloading settings for Web and EJB modules]** を選択します。
  - **[Polling interval for updated files]** を1秒に設定します。
  - **[Classes loaded with local class loader first (parent last)]** を選択します。
  - **[Single class loader for application]** を選択します。
- 15 変更を保存するには、**[Apply]** をクリックしてから **[OK]** をクリックします。
- 16 ページ上部の **[Messages]** 枠にある **[Save]** をクリックします。
- 17 WebSphere Application Serverを停止します。
- 18 WebSphere Application Serverを起動します。
- 19 セクション「Asset Manager Web Tierが正しく展開されたかどうかテストする [P. 96]」に進みます。

### WebLogicがアプリケーションサーバの場合

ここでは、Asset Manager Web ServiceをAsset Manager Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ [Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時にインストールする \[P. 91\]](#)



## Asset Manager Web Serviceのインストール

- 1 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin」フォルダにある「aamapi93.dll」ファイルと「amjni93.dll」ファイルをコピーします。
- 2 コピーしたファイルを「\<jdk\_weblogic>\jre\bin」フォルダに貼り付けます。ここで<jdk\_weblogic>は、Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインに関連付けられたJDKフォルダへのパスに対応します。

例：「C:\Oracle\Middleware\jrocket90\_150\_06\jre\bin」

- 3 Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインの「config」フォルダに移動します（例：「C:\Oracle\Middleware\user\_projects\domains\<ドメイン名>\config」）。
- 4 「config.xml」ファイルを編集します。
- 5 次のサブエントリ、

```
<enforce-valid-basic-auth-credentials>>false</enforce-valid-basic-auth-credentials>
```

を<security-configuration>エントリの最後に追加します。

- 6 「config.xml」ファイルで行った変更を保存します。
- 7 展開するアーカイブファイル（「AssetManager-webservice.ear」）が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].

### 注意:

更新されたアーカイブファイルは、デフォルトでは「<Asset Managerインストールフォルダ>\weblogic」フォルダにあります。

- 8 Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインの**WebLogic Server**ドメインの**Admin Server**を起動します。
- 9 Internet Explorerを起動します。
- 10 次のURLを開きます。

```
http://<Asset Manager Web Serviceサーバの名前またはIPアドレス>:<WebLogicドメインポート>/console
```

例：http://localhost:7001/console

WebLogic管理コンソールが表示されます。

- 11 ユーザIDを入力します。
- 12 メニューの左側で：
  - 1 **[Lock & Edit]**（**[Change Center]** フレーム）をクリックします。
  - 2 **[Deployments]** リンクをクリックします（**[Domain Structure]** フレーム）

- 13 メイン画面の **[Control]** タブで **[Install]** ボタンをクリックします。  
アプリケーションのインストールウィザードが開始します。
- 14 「AssetManager-webservice.ear」を選択し、**[Next]** をクリックします。
- 15 **[Install this deployment as an application]** オプションを選択して、**[Next]** をクリックします。
- 16 ウィザードの他のページに入力し、**[Finish]** をクリックして確定します。
- 17 メニューの左側で：
  - 1 **[Activate changes]** ( **[Change Center]** フレーム) をクリックします。
  - 2 **[Deployments]** リンクをクリックします ( **[Domain Structure]** フレーム)
- 18 メイン画面の **[Control]** タブで、Asset Manager Web Serviceの導入に対応するチェックボックスを選択します。  
インストールが正常に完了すると、アプリケーションのステータスは **[Prepared]** に変わります。
- 19 **[Start/ Servicing all requests]** メニューを選択します。  
アプリケーションのアクティブ化ウィザードが開始します。
- 20 **[Yes]** をクリックしてアクティブ化を確認します。  
アプリケーションのステータスが **[Active]** に変わります。
- 21 セクション「Asset Manager Web Serviceが正しく展開されたかどうかテストする [P. 95]」に進みます。

### Asset Manager Web Tierのインストール

- 1 展開するアーカイブファイル (「AssetManager.ear」) が、使用するカスタム構成で更新されていることを確認します。
  - ▶ アーカイブファイルを更新する [P. 72].

#### 注意:

更新されたアーカイブファイルは、デフォルトでは「<Asset Managerインストールフォルダ>\weblogic」フォルダにあります。

- 2 Asset Manager Web TierをインストールするWebLogicドメインの**WebLogic Server**ドメインの**Admin Server**を起動します。
- 3 Internet Explorerを起動します。
- 4 次のURLを開きます。

`http://<Asset Manager Web Tierサーバの名前またはIPアドレス>:<WebLogicドメインポート>/console`

例：http://localhost:7001/console

- WebLogic管理コンソールが表示されます。
- 5 ユーザIDを入力します。
  - 6 メニューの左側で：
    - 1 **[Lock & Edit]**（**[Change Center]** フレーム）をクリックします。
    - 2 **[Deployments]** リンクをクリックします（**[Domain Structure]** フレーム）
  - 7 メイン画面の**[Control]** タブで**[Install]** ボタンをクリックします。  
アプリケーションのインストールウィザードが開始します。
  - 8 「AssetManager.ear」ファイルを選択し、**[Next]** をクリックします。
  - 9 **[Install this deployment as an application]** オプションを選択して、**[Next]** をクリックします。
  - 10 ウィザードの他のページに入力し、**[Finish]** をクリックして確定します。
  - 11 メニューの左側で：
    - 1 **[Activate changes]**（**[Change Center]** フレーム）をクリックします。
    - 2 **[Deployments]** リンクをクリックします（**[Domain Structure]** フレーム）
  - 12 メイン画面の**[Control]** タブで、Asset Manager Web Tierの導入に対応するチェックボックスを選択します。  
インストールが正常に完了すると、アプリケーションのステータスは**[Prepared]** に変わります。
  - 13 **[Start/ Servicing all requests]** メニューを選択します。  
アプリケーションのアクティブ化ウィザードが開始します。
  - 14 **[Yes]** をクリックしてアクティブ化を確認します。  
アプリケーションのステータスが**[Active]** に変わります。
  - 15 セクション「Asset Manager Web Tierが正しく展開されたかどうかテストする [P. 96]」に進みます。

## Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時にインストールする

### 重要項目:

このインストール方法はテストモードのみで使用可能です。本番モードでは使用できません。本番モードではパフォーマンス上の理由で、Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、2つ別々のアプリケーションサーバにインストールする必要があります。

これは、WebSphere Application ServerまたはWebLogicを使用している場合のみ可能です。Tomcatを使用している場合はできません。

以下では、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを個別にインストールする方法について説明します。

単一の「.ear」を作成して、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時に同じサーバにインストールすることもできます。

これを行うには：

- 1 以下で説明するように、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceの「package.properties」ファイルのパラメータを変更します。
  - Asset Manager Web Service用の「package.properties」パラメータ [P. 73]
  - Asset Manager Web Tier用の「package.properties」パラメータ [P. 77]
- 2 Asset Manager Web Tierの「package.properties」ファイルの **combination.ear**パラメータが、**true**に設定されていることを確認します。
- 3 「<Asset Managerインストールフォルダ>\webtier\package.properties」を使用して、「AssetManager.ear」を更新します。
  - ▶ 展開スクリプトを使用してアーカイブファイルを更新する [P. 79]
- 4 引き続き、これ以降の章で説明するAsset Manager Webの展開手順を実行します。

#### アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合

- 1 WebSphere Application Serverを起動します。
- 2 WebSphere Application Serverの管理コンソールを開きます。
- 3 ナビゲーションバーで、**[Environment/Shared Libraries]** をクリックします。
- 4 **[New]** ボタンをクリックします。
- 5 次のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
Name	<b>am-native-lib</b>
Description	<b>Asset Manager ネイティブライブラリ</b>
Classpath	.
Native Library Path	Asset Managerのバイナリディレクトリへのパス。例： <ul style="list-style-type: none"><li>■ Asset Manager Webを32ビットOSに展開する場合、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerインストールの2文字言語コードを表します。</li><li>■ Asset Manager Webを64ビットOSに展開する場合、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\x64」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerインストールの2文字言語コードを表します。</li></ul>

- 6 **[OK]** をクリックします。
- 7 **[Messages]** 枠で **[Save]** リンクをクリックします。

- 8 ナビゲーションバーで、**[Applications/New Application]** を選択します。
- 9 **[New Application]** ページで、**[New Enterprise Application]** をクリックします。
- 10 次のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
Local file system/ Full path	「AssetManager.ear」ファイルへのパス。

- 11 **[Next]** ボタンをクリックします。
- 12 **[Detailed: Show all installation options and parameters]** オプションを選択し、**[Next]** ボタンをクリックします。  
Webアプリケーションをインストールするために実行する一連のステップが表示されます。
- 13 手順4（共有ライブラリのマップ）：テーブルから、**[AssetManagerWebService]**（URI：AssetManagerWebService.war, WEB-INF/web.xml）を選択します。
- 14 **[Reference shared libraries]** ボタンをクリックします。
- 15 新規ライブラリ：**[am-native-lib]** を選択します。
- 16 インストールウィザードの残りのステップを完了します。
- 17 **[Finish]** ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 18 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAssetManagerインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 19 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 20 ナビゲーションバーで、**[Servers/Server Types/WebSphere application servers]** を選択します。
- 21 右側の枠にあるサーバをクリックします。
- 22 **[Applications]** セクションの**[Installed applications]** をクリックします。
- 23 アプリケーションの一覧から、**[AssetManager]** をクリックします。
- 24 **[Detail Properties]** で**[Application binaries]** をクリックします。
- 25 **[Location (full path)]** フィールドの値をメモします。  
この値には、**\$(APP\_INSTALL\_ROOT)/<セルの名前>**というフォーマットが使用されます。  
この値は、あとで**[JVM Classpath]** フィールドに入力する際に必要になります。
- 26 ナビゲーションバーで、**[Servers/Server Types/WebSphere application servers]** を選択します。

- 27 右側のパネルにあるサーバをクリックします。
- 28 中央のページで、**[Server Infrastructure]** セクションの **[Java and Process Management]** の下にある **[Process definition]** オプションをクリックします。
- 29 次のページで、**[Additional Properties]** セクションの **[Java Virtual Machine]** をクリックします。
- 30 次のページで、以下の要領で **[Classpath]** フィールドに入力します。

値 `-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>/AssetManager.ear`

**注意:**

`$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>`は、前のステップでメモした **[Application binaries]** フィールドの値です。

例 `-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/PC1Node01Cell/AssetManager.ear`

- 31 **[Generic JVM arguments]** フィールドに次のように入力します。

値 `-Djava.library.path=<Asset Managerインストールフォルダ>\bin`

**注意:**

Windowsの場合は、パスに対して短いファイル名を使用する必要があります (下の例を参照)。

例 `-Djava.library.path=C:/PROGRA~1/HP/ASSETM~2.30E/bin`

- 32 変更の保存 :
  - 1 **[Apply]** をクリックします。  
これによりページが再読み込みされます。
  - 2 ページ上部の **[Messages]** 枠にある **[Save]** をクリックします。
- 33 ナビゲーションバーで、**[Applications / Application Types / WebSphere enterprise applications]** を選択します。
- 34 **[AssetManager]** をクリックします。
- 35 [モジュール] セクションの **[Manage Modules]** をクリックします。
- 36 **[AssetManagerWeb]** をクリックします。
- 37 **[Class loader order]** フィールドの値を **[Classes loaded with local class loader first (parent last)]** に設定します。
- 38 **[OK]** をクリックします。
- 39 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 40 WebSphere Application Serverを停止します。

- 41 WebSphere Application Serverを起動します。
- 42 セクション「展開が成功したかどうかテストする [P. 95]」に進みます。

### WebLogicがアプリケーションサーバの場合

- 1 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx\bin」フォルダにある「aamapi93.dll」ファイルと「amjni93.dll」ファイルをコピーします。
- 2 コピーしたファイルを「\<jdk\_weblogic>\jre\bin」フォルダに貼り付けます。ここで<jdk\_weblogic>は、Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインに関連付けられたJDKフォルダへのパスに対応します。

例：「C:\Oracle\Middleware\jrockit90\_150\_06\jre\bin」

- 3 Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインの「config」フォルダに移動します（例：「C:\Oracle\Middleware\user\_projects\domains\<ドメイン名>\config」）。
- 4 「config.xml」ファイルを編集します。
- 5 次のサブエントリ、

```
<enforce-valid-basic-auth-credentials>>false</enforce-valid-basic-auth-credentials>
```

を<security-configuration>エントリの最後に追加します。

- 6 「config.xml」ファイルで行った変更を保存します。
- 7 セクション「Asset Manager Web Tierのインストール [P. 90]」の手順に進みます。

## 展開が成功したかどうかテストする

### Asset Manager Web Serviceが正しく展開されたかどうかテストする

- 1 アプリケーションサーバを起動します。
- 2 Internet Explorerを起動します。
- 3 次のURLを表示します。

```
http://<Asset Manager Web Serviceサーバの名前またはIPアドレス>:<Asset Manager Web Serviceポート>/AssetManagerWebService
```

例：http://localhost:8080/AssetManagerWebService



**警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

 **注意:**

アプリケーションサーバが異なれば、デフォルトのWebサービスポートも異なります。

- 4 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 5 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database Base: AMDemo93en User: Admin Version: 9.30 - build xxxx Dll path: C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 en\bin\aamapi93.dll
```

 **ヒント:**

ヘッダの後にエラーが表示された場合、またはまったく表示されない場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定が誤っている可能性があります、再設定が必要です。

Tomcat 5.5の例： [Initial memory pool] と [Maximum memory pool] の設定。

#### Asset Manager Web Tierが正しく展開されたかどうかテストする

- 1 アプリケーションサーバを起動します。
- 2 Internet Explorerを起動します。
- 3 次のURLを表示します。

```
http://<Asset Manager Web Tierサーバ名>:<Asset Manager Web Tierポート>/AssetManager
```

例： http://localhost:8080/AssetManager

 **警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

 **注意:**

アプリケーションサーバが異なれば、デフォルトのWeb Tierポートも異なります。

- 4 正しく導入されると、上記のURLで接続ページが表示されます。



---

## Asset Manager Webの設定

- ▶ 『Tailoring』ガイドの「**Customizing Web clients**」、**「Modifying the Web client's default behavior**」の章を参照してください。
- ▶ 『管理』ガイドの「データベースへのアクセスコントロール」の章、**「Asset Managerデータベースへのユーザ認証を管理する」**のセクション。

---

## Internet Explorerを使ったAsset Managerへのアクセス

- ▶ 『はじめに』ガイドの「**Asset Managerを初めて使用する**」の章、**「Asset Managerの開始/Webクライアント」**のセクション

---

## Asset Manager Webの最適化



### 警告:

このセクションは、これからお使いになるアプリケーションとWebサーバのガイドの代替となるものではありません。

上記のガイドとユーザの知識と経験を組み合わせることで、アプリケーションサーバとWebサーバを最適な方法でインストール、設定することが出来るようになります。

このセクションでは、いくつかのヒントを提供しますが、完全な一覧ではありませんのでご注意ください。

Asset Manager Webの最適化の詳細については、『**Asset Manager Web Implementation**』ガイドの「**Performance Hints and Problem Diagnosis**」の章を参照してください。

## Tomcatのログファイル

Tomcatで非常に詳細なログファイルが生成されるように設定すると、数千もの無意味な行がログ記録されてしまいます。

Asset Manager Webのパフォーマンスを低下させるだけです。

この問題を回避するためのTomcatの設定例：

- 1 Tomcatの「webapps」フォルダに移動します。
- 2 必要に応じて「AssetManager」フォルダを削除します。

- 3 webapps\AssetManager.war\_buildフォルダ内の「AssetManager.war」ファイルを圧縮解除します。
- 4 新規設定ファイルを作成して、「log4j.properties」（場所は「AssetManager.war\_build\WEB\_INF\classes」フォルダ）と置換します。  
例：log4jnew.properties
- 5 「web.xml」の**log.properties**エントリ（場所はAssetManager.war\_build\WEB\_INF）を変更して、新しい「log4jnew.properties」ファイルを参照するようにします。
- 6 新しいファイル、「log4jnew.properties」を開きます。
- 7 致命的エラーのみログを作成する設定を入力します。  
例：

```
log4j.rootLogger=FATAL, A1 log4j.appender.A1=org.apache.log4j.ConsoleAppender log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.PatternLayout log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=%d{ABSOLUTE} %-5p %c{1} : %m%n log4j.logger.org.apache=FATAL
```

▶ 『Apache log4j』ドキュメント

- 8 Tomcatの「webapps\AssetManager.war\_build」フォルダを参照します。
- 9 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 10 これらのファイルとフォルダを「webapps\AssetManager.war\_build\AssetManager.war」ファイルに圧縮します。
- 11 ファイルをコピーします。
- 12 それを「webapps」フォルダに貼り付けます（以前のファイルに上書きします）。
- 13 「webapps\AssetManager.war\_build」フォルダを削除します。

## Tomcatによって生成されるページの表示にかかる時間

Internet ExplorerでWebクライアントのページを表示する場合、初めてアクセスするページの表示にしばらく時間がかかることがあります。

これは次の理由によるものです。

Tomcatの「work」フォルダ内で記述されていないページをユーザが要求すると（例えば場所のリストなど）、Asset Manager Web Tierは「.jsp」ファイルと、この「.jsp」ファイルからコンパイルされる「.class」ファイルを生成します。表示するページはこれらのファイルによって記述されます。

この動作にはしばらく時間がかかります。

Tomcatの「work」フォルダ内ですでに記述されているページをユーザが要求した場合、対応する「.jsp」ファイルと「.class」ファイルをAsset Manager Web Tierが再度作成するのは、Asset Managerデータベースの構造内でページの記述が変更されている場合だけです。

ページが変更されていない場合は、Internet Explorerですぐに表示されます。

 **重要項目:**

ページの表示速度を高めるために、シャットダウンの際に「work」フォルダ内の「.jsp」ファイルと「.class」ファイルを保持するように、Tomcatを設定することを推奨します。

方法については、Tomcatのドキュメントを参照してください。

## ネットワークパフォーマンス

Webクライアントは、256kbitsネットワークで、400msのping（200msのネットワークレイテンシ）で正常にテストを行えました。

さまざまな読み込み時間の一覧を以下に挙げます。

アクション	読み込み対象
一覧の表示	40KB
詳細の表示	複雑さに応じて50から100KBの間（従業員や部門であれば50KB、ポートフォリオ品目であれば90KBなど）
一覧での選択	1.2 MB
例、ポートフォリオ品目の詳細にある以下のフィールドとリンクを変更します。	
■ 割り当て（seAssignment）	
■ ユーザ（User）	
■ 場所（Location）	
■ 責任者（Supervisor）	
発注の作成	530KB（6KBをクライアントからサーバへ。残りはサーバからクライアントへ）
ポートフォリオ品目の作成、および一覧を参照することによる場所、ユーザ、責任者の選択	1.8 MB（10KBをクライアントからサーバへ。23往復）

## Asset Manager Webのアンインストール

### Apache Tomcatがアプリケーションサーバの場合

Asset Manager Web ServiceまたはAsset Manager Web Tierが導入されているTomcatの各インスタンスに対して：

- 1 Tomcatを停止します。



#### 警告:

Tomcatを停止しなければ、Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierのいくつかのファイルを削除することができません。

これはTomcatの既知のエラーです。

▶ <http://tomcat.apache.org/faq/windows.html#lock>

- 2 導入されたAsset Manager Web ServiceまたはAsset Manager Web Tierを削除します。(Asset Manager 「.jar」 ファイルをC:\Tomcat55\shared\lib folderから削除して、Asset Manager 「.xml」 ファイルをC:\Tomcat55\conf\Catalina\localhostフォルダから削除します。)
- 3 Tomcatの「work」および「webapps」フォルダで、「AssetManager」および「AssetManagerWebService」フォルダを手動で削除します。

## WebSphereがアプリケーションサーバの場合

Asset Manager Web ServiceまたはAsset Manager Web Tierをアンインストールするには:

- 1 WebSphere Application Serverを起動します。
- 2 WebSphere Application Serverの管理コンソールを開きます。
- 3 ナビゲーションバーで、 [**Applications / Application Types / WebSphere enterprise applications**] をクリックします。
- 4 [**AssetManager**] または [**AssetManagerWebService**] の前のボックスを選択します。
- 5 [**Stop**] をクリックします。
- 6 [**AssetManager**] または [**AssetManagerWebService**] の前のボックスを選択します。
- 7 [**Uninstall**] をクリックします。
- 8 [**OK**] をクリックして確定します。
- 9 ページ上部の [**Messages**] 枠にある [**Save**] リンクをクリックします。
- 10 ナビゲーションバーで、 [**Environment / Shared Libraries**] をクリックします。
- 11 [**am-native-lib**] の前のボックスを選択します。
- 12 [**Delete**] をクリックします。
- 13 [**Messages**] 枠で [**Save**] リンクをクリックします。
- 14 WebSphere Application Serverを再起動して、変更を有効にします。

## WebLogicがアプリケーションサーバの場合

将来Asset Manager Web Serviceを正しく再インストールできるようにするには、既存のAsset Manager Web ServiceをWebLogicドメインから削除した後で、WebLogicドメインを再起動する必要があります。

---

### 問題

#### Asset Manager Web

##### 問題

Asset Manager Webクライアントは、新しいバージョンのAsset Managerにアップグレードした後にロードしません。

##### 解決方法

- 1 Asset Manager Web展開を削除します。
  - ▶ Asset Manager Webのアンインストール [P. 99].
- 2 Asset Manager Web 9.30をインストールします。
  - ▶ Asset Manager Webのインストール [P. 60].

#### Tomcatで実行されるAsset Manager Web Tier

##### 問題

Tomcatが正しく停止しない。  
TomcatがWebクライアントを開始できない。

##### 解決方法

- 1 Tomcatを停止します
  - 2 Tomcatのインストールフォルダにある「work\Catalina\localhost\AssetManager」サブフォルダを削除します
  - 3 Tomcatを開始します
- 動作しない場合、Asset Manager Web Tierを再導入してください。

---

##### ヒント:

C:\Tomcat55\logsなどで、エラーの詳細がないかTomcatログを確認してください。

---

## Asset Manager Webの更新

Asset Manager Webの更新前に、Asset Manager Web 5.00をAsset Manager 9.30と併用できるのは、Asset Manager Web Webサービスのタグ付きバージョン（**HEAD**バージョンではない）を使用している場合のみです。

しかし、Asset Manager Web 9.30による改善のメリットは得られません。

Asset Manager Webを更新するには：

- 1 Asset Manager Webを削除します。
  - ▶ Asset Manager Webのアンインストール [P. 99].
- 2 Asset Manager Web 9.30をインストールします。
  - ▶ Asset Manager Webのインストール [P. 60].

---

### 注意:

\$ACWeb;バージョン5.20の場合、「web.xml」ファイルのフォーマットが変わり、そのパラメータに対して大掛かりな見直しが行われました。

- Asset Manager Webの以前のバージョンを設定するために使用される旧パラメータは、認識されなくなります。
- 旧パラメータが新しいパラメータと同じ場合、値の極性または意味が逆転していることが多く見られます。これらの理由から、パラメータ名による検索および置換は、設定データのマイグレート方法として適切ではありません。代わりに、「package.parameters」ファイルに保存されたすべての設定を再検査する必要があります。

新しいパラメータの詳細については、『**Tailoring**』ガイドの「**Customizing Web clients**」、「**Modifying the Web client's default behavior**」の章、「**User defined customizations/ Editing the package.properties file**」を参照してください。

## 7 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル

Asset Manager スイートに属するプログラムは、設定ファイルに関連付けられています（「.ini」 および 「.cfg」 の拡張子）。

### 使用可能な「.ini」 および 「.cfg」 ファイル

使用できる主な「.ini」 および 「.cfg」 ファイルの一覧を次に示します。

表 7.1. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの一覧

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」を追加し、Unixではおそらく「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
Asset Manager am	aamdsk93.ini	ユーザ表示オプション
	am.ini	すべてのウィンドウをデフォルト設定に戻す場合は、このファイルを削除します。 Asset Managerユーザオプション
Asset Manager Application Designer amdba	amdba.ini	Asset Manager Application Designerユーザオプション
amdbal	amdbal.ini	ユーザ表示オプション

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」を追加し、Unixではおそらく「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
Asset Manager Export Tool amexp amexpl	amexp.ini amexpl.ini	Asset Manager Export Toolユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Import Tool amimpl	amimpl.ini	Asset Manager Import Toolユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Script Analyzer amsg	amsg.ini	Asset Manager Script Analyzerユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Automated Process Manager amsrv amsrvl	amsrv.ini amsrv.cfg amsrvl.ini amsrvcf.ini	Asset Manager Automated Process Managerユーザオプション ユーザ表示オプション Webサーバとして稼動するAsset Manager Automated Process Manager用パラメータ
Asset Manager API aamapi93	aamapi93.ini	プログラムユーザオプション
次のプログラムのすべて	amdb.ini mail.ini	データベース接続のリスト Asset Managerメッセージシステムの設定

表 7.2. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの場所

「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
aamdsk93.ini	<b>Windows (NTファミリ) の場合 :</b>
am.ini	「\Documents and Settings\<<Windowsのユーザ名>\Application
amdba.ini	Data\HP\AssetManager\conf」フォルダ内
am.ini	<b>Windows Vista以上 (Windows 7、Windows Server 2008を含む) の場合 :</b>
amdba.ini	「\Users\<<Windowsのユーザ名
amdbal.ini	>\AppData\Roaming\HP\AssetManager\conf」
amexp.ini	フォルダ内
amexpl.ini	<b>Unixの場合 :</b> 「~/HP/AssetManager/conf」
amimpl.ini	フォルダ
amsg.ini	
amsrv.ini	
amsrvl.ini	
aamapi93.ini	



「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
amsrv.cfg amsrvcf.ini	「amsrv」実行可能ファイルと同じフォルダ  <b>注意:</b> 旧バージョンのAsset Managerからアップグレードしている場合、「amsrv.cfg」が実行可能ファイル「amsrv」の親フォルダにある場合があります。これでも機能します。
amdb.ini	<b>Windows (NTファミリ) の場合:</b> 「\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\AssetManager\conf」フォルダ内 <b>Windows Vista以上 (Windows 7、Windows Server 2008を含む) の場合:</b> 「\ProgramData\HP\AssetManager\conf」フォルダ内 <b>Unixの場合:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム接続: 「/var/opt/HP/AssetManager/conf」フォルダ</li> <li>■ ユーザ接続: 「~/HP/AssetManager/conf」フォルダ</li> </ul>
mail.ini	<b>Windows (NTファミリ) の場合:</b> 「\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\AssetManager\conf」フォルダ内 <b>Windows Vista以上 (Windows 7、Windows Server 2008を含む) の場合:</b> 「\ProgramData\HP\AssetManager\conf」フォルダ <b>Unix:</b> 「~」フォルダ

また、これらのファイルの一部が含まれるフォルダは、以下を行って Asset Manager Windowsクライアントでも確認できます。

- 1 Windowsクライアントを起動します。
- 2 **[Asset Managerのバージョン情報...]** ウィンドウを表示します（**[ヘルプ / Asset Managerのバージョン情報...]** メニュー）。
- 3 **[詳細...]** ボタンをクリックします。
- 4 表示されるウィンドウの**[ソフトウェア]** ブランチに、.iniファイルのインストールフォルダが表示されます。
  - **Asset Manager接続の定義ファイル (システム)** は、「amdb.ini」インストールフォルダ (システム接続) に対応します。
  - **Asset Manager接続の定義ファイル (ユーザ)** は、「amdb.ini」インストールフォルダ (ユーザ接続) に対応します。
  - **INI**は、アプリケーションが使用する「.ini」ファイルのインストールフォルダに対応します。

## 「.ini」ファイルを変更する

「.ini」ファイルのエントリは以下のような場合に変更される可能性があります。

- プログラムにより自動的に変更：変更を確定したときまたはプログラムを終了するときに保存されます。後者の場合、[ファイル/終了]を使ってアプリケーションを終了しない場合は、変更は保存されません。
- 手動で変更

可能な限り、「.ini」ファイルエントリは、Asset Managerと関連プログラムを使って変更することをお勧めします。

ただし、手動でしか作成および変更できない「.ini」ファイルエントリもあります。

### 注意:

「.ini」ファイルの手動による変更は複雑な作業なので、十分な知識を持ったユーザのみが行ってください。

以下の表は、変更する「.ini」ファイルのエントリを表しています。これらのエントリは手動でのみ変更できます。

### 注意:

これらの表は、.iniファイルのエントリの一部だけを紹介しています。すべてのエントリが記載されているわけではありません。この表にないセクションやエントリは、手動で変更してはいけません。

ブール型のエントリの値を「1」または「0」で記しています。「1」や「0」の代わりに「True」や「False」という表現も使えます。

## 「am.ini」ファイルのエントリ

### [OPTION] セクション

表 7.3. [OPTION] セクション

エントリ	説明
bSaveOptionOnExit	Asset Managerの終了時に [オプション] セクションの変更されたエントリを保存しない場合は、これを"0"に設定します。 デフォルトでは、変更内容は保存されます。

エントリ	説明
CallDelayMax	<p>応答画面の経過時間インジケータで表示できる合計時間。</p> <p>単位：秒</p> <p>デフォルト値：60秒</p>
CallDelayOrange	<p>応答画面で経過時間インジケータの色がオレンジ色になるまでの時間。</p> <p>単位：秒</p> <p>デフォルト値：20秒</p>
CallDelayRed	<p>応答画面で経過時間インジケータの色が赤色になるまでの時間。</p> <p>単位：秒</p> <p>デフォルト値：40秒</p>
CallerDefaultTicket	<p>応答画面の上の方の【チケット】フィールドに、依頼主の最新のオープンチケットを入力できるようにします（チケットをオープンした日付に基づく）。</p> <p>次の2つの値のどちらかに設定できます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1：【チケット】フィールドに入力する。</li> <li>■ 0：【チケット】フィールドに入力しない。</li> </ul> <p>デフォルト値：0</p>
CmdComboLines	<p>ツールバーから選択可能なビューおよびアクションのリストに表示する項目数を制限します。</p>
CNtbkTabCfg.bShowFlyby	<p>詳細画面でタブのヒントを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 0：いいえ</li> <li>■ 1：表示する。</li> </ul>
g_lHelpDeskUpdateTimeout	<p>データ入力ゾーン内でカーソルをフィールド間で移動したとき、またはヘルプゾーンでデータを選択したときの、応答画面の情報の更新時間。</p> <p>単位：ミリ秒</p> <p>デフォルト値：1 000ミリ秒 (=1秒)</p>
KeyIniFileName	<p>「aamds93.ini」ファイルのパスを指定します。</p> <p>例：</p> <p><b>KeyIniFileName=aamds93.ini</b></p> <p>Asset Managerでは、ネットワークドライブに位置する、ファイル「aamds93.ini」を使用します。この場合、このファイルを読み取り専用として設定し、ユーザが設定を変更できないようにすることができます。</p>
NewMailLastCheck	<p>Asset Managerメッセージが最後に読み取られた時間。</p> <p>単位：1970年1月1日午前0時から経過した秒数</p>

エントリ	説明
opt_bAskForConcurrentModifications	このエントリによって、別のユーザが同じレコードを同時に変更している状況で、ユーザが【変更】ボタンをクリックするとき、Asset Managerが確認ダイアログボックスを表示するかどうかが決まります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1：確認ダイアログボックスを表示する。</li> <li>■ 0：確認ダイアログボックスを表示せず、変更をただちに保存する。</li> </ul>
opt_bCommitDeletesOneByOne	このオプションは、レコードをまとめて削除するときに役立ちます。有効な場合、Asset Managerはレコードを次々と消去します（レコードごとに1つのトランザクション）。そうではない場合、Asset Managerは単一のトランザクションで複数のレコードを消去します。 デフォルト値：0
opt_ImportCacheSize	照合更新キーを使ってデータをインポートするときに、インポートパフォーマンスを改善するのに使用するキャッシュメモリのサイズを設定します。 単位：検出されたレコード数 デフォルト値：100
StartSunday	週を月曜日から始めるか（StartSunday=0）、日曜日から始めるか（StartSunday=1）を指定します このオプションは、カレンダーで使われます。

## [SQL] セクション

表 7.4. [SQL] セクション

エントリ	説明
OracleDLL	Oracleと対話するために読み込むOracle DLLの名前を設定します。

## 「amsrv.ini」ファイルのエントリ

### [OPTION] セクション

表 7.5. [OPTION] セクション

エントリ	説明
MaxRentPerTrans	このエントリは、賃貸料の作成に使われます。 トランザクションごとの賃貸料の最大計算数を設定します。 デフォルト値：200

エントリ	説明
MaxMsgInList	Asset Manager Automated Process Managerのメイン画面リストに表示される行数を設定します。 デフォルト値：5000
<Module>LastCheck ここで、<モジュール>の値は、Alarms、CostCenter、HDAlarms、History、LostVal、Rent、Stats、Stock、TimeZone、UpdateToken、WkGroup、WkGroup <xxx>、WorkflowFinderのいずれか。	LastCheckという接尾語を持つ行は、モジュールの最後の実行日に対応します。 Asset Manager Automated Process Managerの再起動時に次のモジュールの実行を計算することができます。 実行グループ<xxx>が存在しない場合は、プログラムは自動的にこれを実行する必要がないので、WkGroup <xxx> LastCheck行（または、実行グループなしのワークフローチャートがない場合はWkGroupLastCheck行）を削除できます。

## 「amsrvcf.ini」ファイルのエントリ

「amsrvcf.ini」ファイルのエントリについては、インストールで作成されるこのファイル自身に記述されています。

## 「amexp.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 7.6. [OPTION] セクション

エントリ	説明
MaxOldDoc	[ファイル] メニューに保持される最近使用したファイルの最大表示数。

## 「amdb.ini」ファイルのエントリ

Asset Manager接続を記述する各セクションの次のエントリの変換が必要な場合があります。

表 7.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ

エントリ	説明
AmApiDll	Asset Managerの「aamapi93」API DLLへのパスを設定します。 このエントリはHP Connect-Itで使用されます。
FetchingArraySize	SQLステートメントの実行時に先読みする行数。 デフォルト値：30
OdbcLockingTime	Microsoft SQL Serverデータベースの場合、レコードが別のユーザーによってロックされたと見なされるまでの時間を設定します。 単位：秒 デフォルト値：60。  <b>警告：</b> この値が小さすぎると、処理量の多いサーバで実行する場合にインポートが中断されることがあります。
OldStyleCatalog	Oracleデータベースの場合は、このエントリで、デフォルトの「All_Catalog」ビューの代わりに「Tab」ビューを使用することを強制できます。 次の2つの値のどちらかに設定できます <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1：「Tab」を使う。</li> <li>■ 0：「All_Catalog」を使う。</li> </ul>

## 「.ini」ファイルの変更を抑制する

「.ini」ファイルは、オプション変更時にそれぞれのアプリケーションによって自動的に変更されます。

複数の実行可能ファイルまたは実行可能ファイルの複数のインスタンスが同じ「.ini」ファイルに関連付けられている場合、最後に変更を保存した実行可能ファイルの変更内容が書き込まれます。

これらの変更を抑制したい場合は、「.ini」を読み取り専用にすることをお勧めします。

これは、特に「aamapi93.ini」ファイルに当てはまります。

## 8 パフォーマンスの考慮事項

### 概要

Asset Managerのパフォーマンスは以下のような様々な要因に左右されます。

- DBMS :
  - ハードウェア
  - 設定  
この作業は重要ですが、非常に扱いにくいものであるため、実行するにはデータベース管理者のスキルが必要になります。DBMSのパラメータ設定によってはAsset Managerの性能が倍増することもまれではありません。特に、データベースサーバに割り当てるRAM容量に注意を払うことが大切です。
  - DBMSの能力（Asset Managerとの運用性）とミドルウェアの能力（複数の行を1つのネットワークパケットとして取得するなどの高度な機能のサポート）
- サーバのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、ディスクのサブシステム（ディスク、コントローラボード、これらのシステム管理、プロセッサ数など）、テーブルとインデックスで別のストレージデバイスを使用。
- クライアントのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、グラフィックパフォーマンス
- 帯域幅とネットワークの遅延時間
- データベースに格納されているレコード数

Asset Managerのパフォーマンスを最適化する方法については、『**Tuning**』ガイドを参照してください。

## 低速ネットワーク、高速ネットワークと広域ネットワーク（WAN）の調整

詳細については、『管理』ガイドの「WANネットワークにおけるAsset Managerの最適化」の章を参照してください。

### 外部アプリケーションを使ってAsset Managerデータベースのレコードをロックする

外部ツールによっては、レコードを参照している最中でもレコードをロックすることがあります。

これは、Asset Managerの性能に悪影響を及ぼします。レコードは、なるべくロックしないようにしてください。

例えば、Microsoft SQL Serverでは、ダーティリード（dirty read）でアクセスする方が適しています。



# 索引

- .msi (ファイル) , 44
- アクセス制限, 33
- アップグレード
  - Asset Manager Web, 102
  - コンピュータのアップグレード, 22
  - バージョン4.2.x、4.3.x、4.4.x、5.0x、または5.1x
  - 手順, 27
- アンインストール
  - Asset Managerクライアント
  - 自動アンインストール, 48
  - 手動アンインストール - Windows, 42
- アンインストール - Windowsでの自動化, 43
- アンチウイルス - 競合, 37
- アーカイブファイル
- 更新, 79
- インストール
  - Windows, 37-42
    - 使用前の準備, 37
    - 手動インストール, 40
    - 自動化 - Windows, 43
- カウンタ, 26
- キャッシュ, 34
- クライアント/サーバ - Windowsへのインストール, 38
- コンピュータのアップグレード
  - 準備, 22
- サポートされるDBMS, 17
- サポートされるオペレーティングシステムクライアント, 15
- データベースサーバ, 15
- サポートされる環境, 15
- ディスク容量
  - 推奨される動作環境 - Windows, 16
  - 最小限の動作環境 - Windows, 16
- デモ用データベース
  - インストール - Windows, 56
  - パスワード, 56
  - ログイン, 56
- データベース
  - コピー, 26
  - DBMSツール, 27
  - 従来のバックアップ - 問題点, 26
  - 保全性, 10
  - 接続不可, 55
  - 内容を変更する, 10
  - 手動調整, 25
  - 整合性 - 検証, 30 , 24
  - 最終処理, 31
- データベースの修復 (メニュー) , 25 , 24

- データベースを更新 (メニュー) , 29
- データベース健全性, 10
- データベース構造 - 変更, 10
- ネットワーク - パフォーマンス, 112
- パスワード
  - 暗号化, 71
- パスワード - デモ用データベース, 56
- パフォーマンス, 111
- フィールドのヘルプ, 31
- メッセージ, 52
- メッセージシステム (参考 メッセージ)
- メモリ
  - 推奨される動作環境 - Windows, 16
  - 最小限の動作環境 - Windows, 16
- ユーザ (フィールド) , 29 , 28
- ユーザ権限, 33
- ライセンスキー, 56
- レコードの整合性のチェック (オプション) , 30 , 25 , 24
- レコード - ロック, 112
- レポート (参考 SAP Crystal Reports)
- ログイン - デモ用データベース, 56
- ワークフロー (モジュール) , 26
- 既存のデータベースを開く (メニュー) , 28 , 27
- 接続, 34
- 解析のみ, 30
- 所有者 (フィールド) , 29 , 28
- 修復 (オプション) , 25 , 24
- 展開スクリプト, 79 , 64
- 整合性 - 検証, 30
- 周辺プログラムの統合, 13
- 最小限の動作環境 - Windows, 16
- 変換速度, 23
- 機能権限, 33
- 設定
  - Windows
  - 設定データ, 64
  - 調達 (モジュール) , 26
  - 開く (メニュー) , 25 , 24

## A

- am.ini, 51
- am93.db, 56

- amdb.ini, 38
- Asset Manager
  - コンポーネント (参考 Asset Managerの  
パッケージ)
  - モジュール (参考 Asset Managerモジュール)
- AssetManager.msi, 44
- Asset Manager Application Designer
  - データベース整合性 - 検証, 30 , 24
- Asset Manager Automated Process Manager, 33
  - HP Connect-It - 統合, 53
  - はじめに, 53
  - サービスとしての実行, 54
  - データベースに接続する
    - Windows, 55
  - 実装
    - Windows, 54
  - 設定
    - Windows, 53
- Asset Manager Web, 35
  - アンインストール, 99
  - アーキテクチャ, 59
  - インストール, 60
  - トラブルシューティング, 101
  - パスワード, 71
  - 更新, 102
  - 最適化, 97
  - 作成パラメータ, 72
  - 設定, 97
- Asset Managerの周辺プログラム, 13
- Asset Managerクライアント
  - 高速インストール - Windows, 38
  - 言語, 39
  - 自動アンインストール - Windows, 48
- Asset Managerコンポーネント, 11
- Asset Managerプログラム - 更新
  - 手順, 34
- Asset Managerモジュール, 12
- autorun.exe, 40

## C

- cfg (ファイル)
  - 一覧, 103

config (フォルダ) , 32

CPU

推奨される動作環境 - Windows, 16

最小限の動作環境 - Windows, 16

## D

deploy.batファイル, 64

Dirty read, 112

## G

gbbase.xml, 32

Get-It, 35

Get-Resources, 35

## H

HP Connect-It, 35

Asset Manager Automated Process  
Manager - 統合, 53

Asset Manager - 統合, 55

HP Connect-Itシナリオ, 35

## I

ini (ファイル)

一覧, 103

変更, 106

## L

ld.so, 67

## M

MAPI (参考 メッセージ)

## N

NTユーザ, 55

## O

Oracle, 37

Oracle DLL - バージョン, 51

Oracleクライアント層 - Windowsへのインス  
トール, 37

Orca, 44

## P

package.propertiesファイル, 72

## S

SAP Crystal Reports

Asset Managerとの統合, 55

Windowsへのインストール, 38

SAP Crystal Reports ランタイム - Windows  
へのインストール, 38

sdu.log, 30

SMTP (参考 メッセージ)

## U

up\_GetCounterVal (ストアドプロシージャ) ,  
31 , 26

upgrade.lst, 36

## V

VIM (参考 メッセージ)

## W

web.xmlファイル, 64

Webサービス

ライセンス, 62

Webサービスのタグ付け, 71

